

第7次秋田市行政改革大綱
(第3期・県都『あきた』改革プラン)

実施計画

令和4年3月

秋田市

目 次

第7次秋田市行政改革大綱実施計画 取組一覧	1
I 公共サービスの改革	5
1 市民協働・官民連携の推進	5
(1) 市民協働・都市内地域分権の推進	5
(2) 官民連携手法の活用	15
2 公共施設マネジメントの推進	25
(1) 公共施設の総合的な管理	25
(2) 公共施設のあり方の見直し	27
3 市民満足度の向上	35
(1) 窓口や行政サービスの改善	35
(2) 市民の利便性の向上	45
II 財政運営の改革	49
1 財政基盤の確立	49
(1) 中・長期財政見通しに基づく財政運営の推進	49
(2) 特定目的基金の見直し	51
(3) 市出資団体の経営の健全化	53
2 歳入の確保	54
(1) 新規財源の開拓	54
(2) 適正な債権管理と未収金の解消	57
(3) 未利用資産の売却	60
(4) 基金の効率的な運用	61
3 歳出の見直し	62
(1) 繰出金の見直し	62
(2) 公共施設に係るコスト縮減	63
III 組織・執行体制の改革	67
1 組織体制の見直し	67
(1) 組織機構の見直し	67
(2) 職員数の適正管理	69
(3) 消防組織機構の見直し	70
2 執行体制の見直し	73
(1) 情報システムの最適化および効率化	73
(2) 職員の働き方の検証	77
(3) 事務の集約化	78
3 内部統制の推進と職員の資質向上	81
(1) 内部統制とコンプライアンスの推進	81
(2) 職員の資質向上	83

第7次秋田市行政改革大綱実施計画 取組一覧

【取組スケジュールに係る表記の凡例】

- ▶ 準備・手続
- ▶ 継続実施
- 実施
- ◎ 完了

I 公共サービスの改革

I-1 市民協働・官民連携の推進

(1) 市民協働・都市内地域分権の推進	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①市民協働による避難所の運営	○	————▶	————▶	————▶	防災安全 対策課	5
②町内会等に対する支援策の実施	————▶	————▶	————▶	————▶	生活総務課	6
③市民協働の推進	————▶	————▶	————▶	————▶	中央市民SC	7
④都市内地域分権の推進	————▶	————▶	————▶	————▶	中央市民SC	9
⑤地域における自殺対策力の強化	————▶	————▶	————▶	————▶	健康管理課	11
⑥市民協働による生活道路の除排雪の推進	————▶	————▶	————▶	————▶	道路維持課	13
⑦地域が主体となる生活交通の導入	-----▶	-----▶	-----▶	○	交通政策課	14
(2) 官民連携手法の活用	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①PPP/PFI手法の活用推進	————▶	————▶	————▶	————▶	総務課	15
②文化施設（文化財）への指定管理者制度の導入	-----▶	-----▶	-----▶	○	文化振興課	16
③コミュニティセンターへの指定管理者制度の導入	-----▶	-----▶	-----▶	○	生活総務課	17
④南浜地域活動支援センターのあり方の検討	◎				障がい福祉 課	18
⑤公立保育所のあり方の検討	-----▶	-----▶	-----▶	-----▶	子ども育成 課	19
⑥学校給食調理場への民間委託の推進	————▶	————▶	————▶	————▶	学事課	20
⑦千秋公園への官民連携手法の活用検討	○	————▶	————▶	————▶	公園課	21
⑧下水道ポンプ場への官民連携手法の活用検討	-----▶	○	————▶	————▶	上下水道局 下水道施設 課	23
⑨仁井田浄水場への官民連携手法の活用検討	○	————▶	————▶	————▶	上下水道局 仁井田浄水 場建設室	24

I-2 公共施設マネジメントの推進

(1) 公共施設の総合的な管理	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①公共施設等総合管理計画の改訂・推進				→	財産管理 活用課	25
②個別施設計画の実施	○			→	財産管理 活用課ほか	26
(2) 公共施設のあり方の見直し	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①未利用施設の利活用と解体の検討・実施				→	財産管理 活用課	27
②雄和糠塚地区民間資本活用施設用地の売却			→	○	観光振興課	28
③河辺多目的総合センター・雄和山水荘の解体	○	◎			産業企画課	28
④配水ポンプ施設の廃止	○			→	上下水道局 水道維持課	29
⑤秋田県流域下水道への接続による単独公共下水道の廃止				→	上下水道局 下水道整備課	30
⑥農業集落排水処理施設の廃止				→	上下水道局 下水道整備課	31
⑦金足地域センターのコミュニティセンター化	◎				生活総務課	32
⑧老人いこいの家のあり方の検討	→	◎			長寿福祉課	32
⑨リフレッシュガーデンのあり方の検討			→	○	産業企画課	33
⑩勤労者体育センターのあり方の検討			→	○	産業企画課	33

I-3 市民満足度の向上

(1) 窓口や行政サービスの改善	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①入札・契約制度の改善			→	○	契約課	35
②窓口業務のあり方の検討			→	○	市民課	37
③中小企業関係等申請窓口のあり方の検討				→	商工貿易 振興課	39
④AEDの有効活用に向けた取組強化				→	消防本部 救急課	40
⑤防火対象物に対する査察体制の充実				→	消防本部 予防課	42
⑥介護施設等への119番出前講座実施				→	消防本部 指令課	43
⑦水道スマートメーター導入の検討		→	○	→	上下水道局 お客様セン ター	44
(2) 市民の利便性の向上	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①マイナンバーカードの普及促進とマイナポータルやマイキー等の活用				→	情報統計課	45
②電子申請サービスの拡充				→	デジタル化 推進本部	46
③オープンデータの推進				→	デジタル化 推進本部	48

Ⅱ 財政運営の改革

Ⅱ－1 財政基盤の確立

(1) 中・長期財政見通しに基づく財政運営の推進	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①中・長期財政見通しの活用による財政運営の健全性の確保				→	財政課	49
②市債残高の抑制				→	財政課	50
(2) 特定目的基金の見直し	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①特定目的基金の見直し	○			→	財政課ほか	51
(3) 市出資団体の経営の健全化	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①市出資団体の経営の健全化				→	総務課ほか	53

Ⅱ－2 歳入の確保

(1) 新規財源の開拓	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①ガバメントクラウドファンディングの実施	→	○		→	人口減少・移住定住対策課	54
②新規財源の開拓				→	財政課	55
③ネーミングライツの導入	◎				スポーツ振興課	56
(2) 適正な債権管理と未収金の解消	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①滞納整理の推進				→	特別滞納整理課	57
②市税等の収入率向上等	○			→	納税課ほか	58
(3) 未利用資産の売却	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①未利用資産の売却				→	財産管理活用課	60
(4) 基金の効率的な運用	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①基金の効率的な運用				→	会計課	61

Ⅱ－3 歳出の見直し

(1) 繰出金の見直し	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①繰出金の見直し				→	財政課	62
(2) 公共施設に係るコスト縮減	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①事前協議による公共工事のコスト縮減				→	工事検査室	63
②省エネ推進による公共施設におけるコスト縮減				→	環境総務課	64
③ごみ溶融炉でのバイオマスチップ(木質チップ)の採用	○			→	総合環境センター	65
④汚泥再生処理センターのし尿処理の低コスト化	→	→	○	→	総合環境センター	66

Ⅲ 組織・執行体制の改革

Ⅲ－１ 組織体制の見直し

(1) 組織機構の見直し	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①効果的かつ効率的な組織機構の構築				→	総務課	67
(2) 職員数の適正管理	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①職員数の適正管理				→	人事課	69
(3) 消防組織機構の見直し	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①消防団の組織体制の見直し				→	消防本部 警防課	70
②消防力の適正配置				→	消防本部 警防課	72

Ⅲ－２ 執行体制の見直し

(1) 情報システムの最適化および効率化	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①文書管理システムにおける電子化率の向上				→	文書法制課	73
②ICTに係る中期的計画の策定・実施	---	→	○	→	デジタル化 推進本部	74
③情報システムの見直しおよび最適化	---	→	◎		情報統計課	75
④印刷機器の適切な運用および管理によるコスト削減				→	情報統計課	76
(2) 職員の働き方の検証	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①職員の働き方の検証				→	人事課	77
(3) 事務の集約化	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①給与・福利厚生等総務事務の集約化	---	→	◎		人事課	78
②駅東サービスセンターの土日・祝日休館	→	○		→	駅東サービ スセンター	79
③図書館の庶務経理の集中管理	→	◎			中央図書館 明德館	80

Ⅲ－３ 内部統制の推進と職員の資質向上

(1) 内部統制とコンプライアンスの推進	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①事務処理に関するリスク管理体制の強化				→	総務課	81
②内部統制に関する方針および体制の整備	---	→	◎		総務課	82
(2) 職員の資質向上	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	担当	ページ
①業務改善運動の推進				→	総務課	83
②時代の変化や行政課題に対応できる人材の育成				→	人事課	84
③女性管理職の登用拡大				→	人事課	85

I 公共サービスの改革－1 市民協働・官民連携の推進

【取組スケジュールに係る表記の凡例】

- ▶ 準備・手続
- ▶ 継続実施
- 実施
- ◎ 完了

I 公共サービスの改革

1 市民協働・官民連携の推進

(1) 市民協働・都市内地域分権の推進

I-1-(1)-①	市民協働による避難所の運営		担当	防災安全対策課
取組概要	大規模災害により、多数の避難所で長期の避難生活が強いられる状況となった場合には、行政の対応だけで管理・運営することは限界がある。そのため、市民が避難所運営の主体として活動するための運営方針を策定し、運営訓練の実施を通じて、災害時に市民協働による運営ができる体制を構築する。			
取組スケジュール	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
	○			▶
成果指標	①令和元年度(2019)に、市民協働による避難所運営マニュアルを策定する。 ②令和4年度(2022)までに、市民協働による避難所運営訓練を実施する。		指標の現状 ①避難所運営マニュアルの策定 令和元年度(2019)：完了 ②避難所運営訓練の実施 準備・手続	
年度別取組内容				
R1 (2019)	▶ 「市民協働による避難所運営方針」策定 ▶ 「市民協働による避難所運営マニュアル」策定			
R2 (2020)	▶ 避難所運営に関する情報提供・啓発に向けた体制整備 避難所運営に関する情報提供・啓発・訓練指導に向け、市職員を地域防災訓練等に派遣する体制を整備した。新型コロナウイルス感染症の影響により今年度の派遣は見送ったものの、各市民サービスセンターで市職員による避難所開設訓練を行うなど、次年度以降の運営訓練を段階的かつ円滑に実施するための準備を進めた。			
R3 (2021)	▶ 運営訓練のマニュアルの整備 試行的に運営訓練を行い、マニュアルへの反映を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策としての基本的感染予防対策を考慮し、まずはモデル地区を設定し、個々の避難所における避難所運営会議を市民と協働で複数回開催して、避難所ごとの運営マニュアルの整備に着手した。また、モデル地区の避難所は、西部地区および中央地区のサービスセンターとコミュニティセンターとし、カリキュラムを基に、避難所運営会議を行った。			
R4 (2022)	▶ 運営訓練の本格実施 各避難所において、避難所運営会議の開催数を増やし、全市的に市民協働による避難所運営訓練が実施できるよう取り組んでいく。			

I-1-(1)-②	町内会等に対する支援策の実施			担当	生活総務課
取組概要	地域自治活動の基盤となる町内会・自治会組織への加入率が減少傾向にあることから、加入促進リーフレットを配布し、賃貸住宅世帯・転入世帯に対し、加入について啓発を図る。また、町内会長等の組織の担い手に対し、平成28年度(2016)に作成したガイドブックを活用し、育成・援助を行う。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	▶
成果指標	町内会加入率について、平成29年度(2017)の水準を維持する。		指標の現状 平成29年度(2017):79.7% 令和元年度(2019):78.9% 令和2年度(2020):78.6% 令和3年度(2021):77.4%		
年度別取組内容					
R1(2019)	▶ 町内会への加入促進 加入促進リーフレットを市の窓口や宅建協会等へ設置するとともに、町内会等への配布等により、町内会等への加入促進を図った。また、転入世帯が円滑に町内会へ加入できるよう、ホームページに町内会問合せフォームを作成し、支援体制の充実を図った。 ▶ 町内会等への支援、担い手の育成 町内会長等の組織の担い手に対し、「町内会・自治会ガイドブック」を活用し、育成・援助を行った。 ▶ 優良事例の収集・周知 他都市における町内会・自治会活動に関する優良事例の収集・周知について対応を検討した。				
R2(2020)	▶ 町内会への加入促進 上記取組を継続した。 ▶ 町内会等への支援、担い手の育成 上記取組を継続したほか、町内会の実態把握を行うため、新型コロナウイルス感染症の影響による課題等を含むアンケートを実施し、必要な支援策について検討した。 ▶ 優良事例の収集・周知 上記取組を継続した。				
R3(2021)	▶ 町内会への加入促進 広報あきたへの町内会加入促進に向けた記事を掲載したほか、住居表示決定時に町内会加入促進リーフレットを配布した。 ▶ 町内会等への支援、担い手の育成 町内会長に向けた町内会運営に関するガイダンスを実施した。(仁井田地区・寺内地区)				
R4(2022)	継続実施				

I-1-(1)-③	市民協働の推進		担当	中央市民サービスセンター
取組概要	行政サービス ¹ の提供範囲での市民協働に加え、市民、NPO、企業、行政等の多様な主体が公共を支えるこれからの市民協働を推進する視点で、「つむぎすと講座」、「市民協働ミーティング」、「協働サポート交付金事業」を継続して実施するとともに、市民活動団体の運営体制強化に向けた支援拡充や、企業の社会貢献活動も含めた市民協働の実践を目指す。また、市民活動団体が、市民、NPO、企業、行政等の間にたって、コンサルテーションや情報提供などの支援、資源の仲介等を行う中間支援組織の機能を果たせるよう環境づくりを行う。			
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
成果指標	①令和4年度(2022)までに、13の部局を対象とした「協働サポート交付金事業」を実施する。 ②令和4年度(2022)までに、中間支援組織の導入を目指す。		指標の現状 ①協働サポート交付金事業実施 平成30年度(2018)：5部局（子ども未来部、福祉保健部、環境部、教育委員会、選挙管理委員会） 令和元年度(2019)：7部局（市民生活部、観光文化スポーツ部で新規実施） 令和2年度(2020)：8部局（産業振興部で新規実施） 令和3年度(2021)：8部局 ②中間支援組織導入 検討	
年度別取組内容				
R1(2019)	<p>▶ つむぎすと講座の実践 市職員と市民が合同で市民協働の実践活動等を学ぶ講座を実施し、多様な主体との連携を促進する人材を育成・支援した。</p> <p>▶ 市民協働ミーティングの実践 「市民協働ミーティング2019 企業×市民活動＝あきたあい」を開催し、秋田市内で地域貢献に取り組む4名をゲストスピーカーに迎え、活動内容を紹介したほか、マッチングワークショップで参加者同士の意見交換を行うなど、多様な主体の交流を促し、新しい活動の創出や課題解決につながるようコーディネートを図った。</p> <p>▶ 協働サポート交付金事業の実践 行政とNPO等が協働して地域・社会課題に取り組む協働サポート交付金事業について、新たに4事業を実施した。（竿燈まつり魅力向上、情報プラットフォーム、産前産後ケア、キンダーカウンセリ</p>			

	<p>ング)</p> <p>➤ 市民活動団体への支援拡充 市民交流サロンの市民活動支援アドバイザーを1名増員し、資金調達や財政基盤の整備等を含め、市民活動全般に対する助言・支援を強化した。</p> <p>➤ 中間支援組織の導入検討 中間支援組織の機能や設置運営方式について庁内で検討した。</p>
R2(2020)	<p>➤ まちづくりLab☆(つむぎすとキャリアアップ講座)の実践 地域に入り、まちづくりの手法や支援スキルについて実践的に学ぶ講座を実施し、地域づくり組織や地域住民などの協働によるまちづくりを推進するための人材育成等を図った。今年度は仲小路地域の魅力や地域資源をテーマに、まちあるきやインタビューを通じた事業づくりに取り組んだ。</p> <p>➤ 協働サポート交付金事業の実践 新たに2事業を実施した。(外国人対応おもてなし、ミネラル・オーガニック給食推進) 新型コロナウイルス感染症の影響により、新規事業提案数が減少し、市民活動団体の活動が困難な状況であったことから、次年度以降の取組について必要な調整や支援を行った。</p> <p>➤ 市民活動団体への支援 市民活動支援アドバイザーによる、資金調達や財政基盤の整備等の活動全般に対する助言・支援を行った。</p> <p>➤ 中間支援組織の導入検討 中間支援組織の導入に関して、秋田県ゆとり生活創造センター(遊学舎)と情報共有して検討を継続したほか、類似機能を有する市民交流サロンに求める機能やあり方を整理した。</p>
R3(2021)	<p>➤ 市民協働ミーティングの実践 「市民活動×SDGs」をテーマとして、ゲストスピーカートークやワークショップ等を行った。</p> <p>➤ 協働サポート交付金事業の実践 新たに1事業を実施した。(プラスチックごみ削減)</p> <p>➤ 市民活動団体への支援 市民交流サロンの市民活動支援アドバイザーによる、資金調達や財政基盤の整備等の活動全般に対して助言・支援を行った。</p> <p>➤ 中間支援組織の導入方針の検討 市内の中間支援組織(NPO法人あきたパートナーシップ(遊学舎の指定管理者))と本市における中間支援組織の現状やその役割等を情報共有し、今後の遊学舎との連携の拡充を検討した。</p>
R4(2022)	<p>➤ 市民協働ミーティングの開催、協働サポート交付金事業の実践、市民活動団体への支援</p> <p>➤ 中間支援組織の導入方針の決定</p>

I 公共サービスの改革－1 市民協働・官民連携の推進

I-1-(1)-④	都市内地域分権の推進		担当	中央市民サービスセンター
取組概要	住民の自主的な地域自治活動の促進を強化するため、地域づくり組織を中心とした地域住民がワークショップ等の手法により白紙から一緒に考え、計画を立て、取り組む「地域まちづくり推進事業」とともに実践する。			
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
成果指標	令和4年度(2022)までに、地域住民は自ら主体的に、行政は側面的支援の充実を図りながら、全地域で「地域まちづくり推進事業」を実践する。		指標の現状	
平成30年度(2018)～: 3か所の地域(東部・南部・中央)で事業開始				
年度別取組内容				
R1(2019)	<p>▶ 地域まちづくり推進事業の実施</p> <p>3か所の地域(東部・南部・中央)で事業実施し、事業の実施にかかる情報について関係者間で共有を図り、必要な助言を行うなど、地域づくり組織と行政が連携しながら実践した。</p>			
R2(2020)	<p>▶ 地域まちづくり推進事業の実施・検証</p> <p>3地域(東部・南部・中央)の取組について、まちづくりコーディネーターからの助言をもらいながら、地域づくり組織と行政が連携し、内容の検証や今後の方向性を検討した。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、各地域で取組内容を変更して事業を実施した。</p>			
R3(2021)	<p>▶ 地域まちづくり推進事業の実施</p> <p>3地域(東部・南部・中央)の取組は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも継続して実施した。また、地域づくり組織代表者連絡会において、3地域(東部、南部、中央)の地域まちづくり推進事業の取組状況および4地域(西部、北部、河辺、雄和)の各地域づくり組織におけるまちづくりの取組状況を確認し、全地域で情報共有し、今後のまちづくりの検討の機会を提供した。</p> <p>▶ まちづくりラボ講座の実施</p> <p>地域密着型のまちづくりの実践を行う「まちづくりラボ講座」を南部地域(四ツ小屋地区)で開催し、地域におけるまちづくりの担い</p>			

¹ 行政サービス＝公共サービス＝市民サービス
 行政サービスとは、行政(市)が提供するサービスの総称のこと。
 公共サービスとは、行政のみならず、NPO等を含む民間によっても提供される公共的なサービスの総称のこと。NPOとはNonProfit Organizationの略で、継続的・自発的に社会貢献活動を行う、営利を目的としない団体の総称のこと。
 市民サービスとは、市民が受けるサービスの総称のこと。ここでは、地方自治法にある「住民福祉」を意味する。同法では、地方公共団体は住民福祉の増進を図ることを基本とすることが規定されている。

	手育成と気運醸成を図った。
R4(2022)	継続実施（まちづくりラボ講座は東部地域で開催）

I-1-(1)-⑤	地域における自殺対策力の強化			担当	健康管理課
取組概要	地域との協働やネットワークを強化し、地域の実情に応じた各種事業を実施し、ゲートキーパー ² 、傾聴ボランティアなどの自殺対策に係る人材の確保、養成、資質の向上を図る。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	▶
成果指標	<p>①令和4年度(2022)までに、自殺対策を支える人材育成に関する研修会の修了者数を延べ3,000人にする。</p> <p>②令和4年度(2022)までに、生きる力の強化に関連する相談事業数を40事業にする。</p>		<p>指標の現状</p> <p>①研修会修了者数 平成29年度(2017):725人 平成30年度(2018):984人 令和元年度(2019):963人 令和2年度(2020):527人</p> <p>②生きる力の強化に関連する相談事業数 平成29年度(2017):28事業 平成30年度(2018):28事業 令和元年度(2019):28事業 令和2年度(2020):42事業</p>		
年度別取組内容					
R1(2019)	<p>▶ 地域におけるネットワークの強化 民・学・官の連携による秋田市自殺対策ネットワーク会議を中心に、「秋田市民の心といのちを守る自殺対策計画」に基づく取組の推進や、相談機関等の関係機関がそれぞれの役割に応じた自殺対策を推進していく体制を強化した。また、秋田市自殺対策ネットワーク会議の中に、同計画の重点施策を進めるための検討部会を設置し、勤務・経営対策について検討したほか、自殺未遂者対策検討部会を開催した。</p> <p>▶ 自殺対策を支える人材育成 様々な悩みや生活上の困難を抱える市民に対して、早期に気づき、適切な支援へとつなぐ役割を担う人材を育成するため、保健、医療、福祉、教育等の関連機関に従事する方や一般市民に対して、こころのケア相談セミナーやゲートキーパーに関する研修会などを開催したほか、人材育成に取り組む民間団体を支援した。</p>				
R2(2020)	<p>▶ 地域におけるネットワークの強化 上記取組を継続し、重点施策検討部会で若者対策について検討したほか、令和元年度の重点施策検討部会(勤務・経営対策)の決定に基づき、研修会および自殺対策パンフレットの作成・配布を行った。</p> <p>▶ 自殺対策を支える人材育成</p>				

² ゲートキーパー
 自殺の危険を示すサインに気づき、必要な支援につなぎ、見守る等の適切な対応ができる人(命の門番)

	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により上期に開催予定だった人材育成に関する研修会が開催できず、下期に定員を減らして開催した。また、民間団体が実施している相談事業の相談件数増加に伴い、相談体制の拡充および相談環境への支援を行った。</p>
R3(2021)	<p>➤ 地域におけるネットワークの強化 秋田市自殺対策ネットワーク会議、自殺対策庁内連絡会議、重点施策検討部会（生活困窮者対策）、自殺未遂者対策検討部会を開催。昨年度の重点施策検討部会（若者対策）での検討結果を踏まえた研修会（若者のこころの健康講座）をZoomによるオンラインで開催したほか、若者向け自殺対策ステッカーの作成・配布を行った。</p> <p>➤ 自殺対策を支える人材育成 人材育成に関する研修会として、こころのケア相談セミナーをZoomによるオンラインで開催するため、広く周知するとともに、人材育成に取り組む民間団体の活動を支援した。</p>
R4(2022)	<p>継続実施</p>

I-1-(1)-⑥	市民協働による生活道路の除排雪の推進		担当	道路維持課
取組概要	地域住民等が自ら行う除排雪作業に対する支援策について、利用状況と他都市の状況を調査し、より利用しやすい制度となるように事務改善を進めるとともに、新たな支援策についても検討する。			
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
成果指標	①小型除雪機械の貸出し台数 ②個人所有の小型除雪機械への燃料支給団体 について、平成29年度(2017)実績以上を目指す。		指標の現状 ①小型除雪機械の貸出し台数 平成29年度(2017):15台 平成30年度(2018):17台 令和元年度(2019):17台 令和2年度(2020):16台 ②個人所有の小型除雪機械への燃料支給団体 平成29年度(2017):59団体 平成30年度(2018):60団体 令和元年度(2019):52団体 令和2年度(2020):64団体	
年度別取組内容				
R1(2019)	▶ 地域住民が行う除排雪に対する支援制度の利用促進 個人所有の小型除雪機械への燃料支給や地域住民用小規模堆雪場事業など、地域住民が自ら行う除排雪作業に対する支援制度のさらなる利用促進を図るため、発信回数を増やすなど、広報活動を充実させた。 ▶ 新たな支援策の検討 支援制度の利用状況と県内他都市の状況を調査し、新たな支援策について検討した。			
R2(2020)	継続実施			
R3(2021)	〃			
R4(2022)	〃			

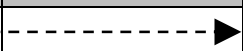
【貸出し機械】



ハンドガイド式小型除雪機



歩行型ローダ

I-1-(1)-⑦	地域が主体となる生活交通の導入		担当	交通政策課
取組概要	<p>運転免許返納者の増加や、運転手不足によるバス路線の廃止等に伴い、新たな公共交通空白地域が生じてきている。一方、マイタウン・バス³においては、利用者の減少により、財政負担が増加し続けている。こうしたことから、地域が主体となって運行する制度とすることで「地域の交通を地域が守り育てる」意識の醸成を図る仕組みを持った、新たな移動手段を創設する。</p>			
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
成果指標	令和4年度(2022)までに、2地区で導入する。			○
年度別取組内容				
R1(2019)	<p>▶ 先進地事例の視察・調査 先進地（岐阜市）を視察し、事例調査を行った。</p> <p>▶ モデル地区の募集 広報あきたおよびホームページにおいて、新たな移動手段を試験的に導入する団体を募集したほか、バス運行等の要望がある団体に対し、事業説明を行った。</p>			
R2(2020)	<p>▶ 実証運行の準備 多様な運行形態の手法について検討し、地域、行政、民間事業者（タクシー事業者やスーパーマーケット）が連携して運行する買物タクシーの実証運行に向けて協議した。</p>			
R3(2021)	<p>▶ 1地区目の実証運行 買物タクシー事業の実証運行対象地区（新藤田地区、手形字中台）の住民に対して、アンケート調査を行うとともに、実証運行を実施した。</p>			
R4(2022)	<p>▶ 1地区目の本格運行 前年度の実証運行を検証し、持続可能な本格運行に向けて支援する。</p> <p>▶ 2地区目の実証運行</p>			

³ マイタウン・バス

秋田市の郊外部における路線バスの不採算路線の廃止代替交通として、地域住民の移動手段を確保するため、市が事業主体となって運行しているコミュニティバスのこと。

(2) 官民連携手法の活用

I-1-(2)-①	PPP/PFI手法の活用推進			担当	総務課
取組概要	「秋田市PPP/PFI ⁴ 手法の活用検討に関するガイドライン」に基づき、公共施設の整備等に当たり、PPP/PFI手法の導入を優先的に検討する。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
成果指標	事業費(建設等)総額10億円以上又は単年度事業費(運営等)1億円以上の事業について、優先的検討を実施する。			指標の現状 継続実施	
年度別取組内容					
R1(2019)	<p>▶ 優先的検討の実施 仁井田浄水場更新事業の採用手法について、PPP/PFI手法導入検討協議会で詳細な検討を行ったほか、下水道管路および下水道ポンプ施設の官民連携手法について協議を行った。</p> <p>▶ 東北ブロックプラットフォームへの参加等 内閣府および国土交通省の主導により開催される産官学金の協議の場(東北ブロックプラットフォーム)でのPPP/PFI研修、他自治体のPPP/PFI事例およびサウンディング型市場調査に関する情報を庁内に周知し、ノウハウの習得と制度活用の推進を図った。</p>				
R2(2020)	<p>▶ 優先的検討の実施 下水道管路、下水道ポンプ施設、中学校空調設備の整備事業の採用手法について、PPP/PFI手法導入検討協議会で詳細な検討を行った。</p>				
R3(2021)	<p>▶ あきた公民連携地域プラットフォームへの参加等 秋田県および秋田銀行の主導により設置される産官学金の連携の場(あきた公民連携地域プラットフォーム)へ参加し、PPP/PFI研修、他自治体のPPP/PFI事例およびサウンディング型市場調査に関する情報を庁内に周知し、ノウハウの習得・共有と制度活用の推進を図った。</p>				
R4(2022)	//				

⁴ PPP/PFI

PPP (Public Private Partnership) とは、官民が連携して公共サービスの提供を行う手法で、この中にPFI、指定管理者制度、包括的業務委託、民設公営等が含まれる。PFI (Private Finance Initiative) とは、公共施設等の建設、維持管理、運営に民間の資金とノウハウを活用することにより、整備等に係るコストを縮減する手法のこと。

I-1-(2)-②	文化施設(文化財)への指定管理者制度の導入		担当	文化振興課
取組概要	国県市指定文化財の保護と有効活用を両立できる指定管理手法について、令和元年度(2019)から修復整備を行う予定の旧松倉家住宅をモデルに実施する。			
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
成果指標	令和4年度(2022)までに、国県市指定文化財に対して初めてとなる指定管理者制度を導入する。		指標の現状 準備・手続	
年度別取組内容				
R1(2019)	<p>➤ 指定管理業務内容の検討 旧松倉家住宅の活用に意欲を示している地域団体と、文化財の保護や活用等に関する意見交換を開催するとともに、文化財の有効活用を主題にプロポーザルで選定・実施した羽州街道歴史まつりの評価を行い、地域との連携・協働や観光振興等に資する業務内容、指定管理者の種別等を検討した。</p> <p>➤ 役割分担ルールの整理 指定文化財に指定管理者制度を導入し、かつ、自主事業の開催など活用を図っている他団体の事例調査および条例等の収集を行い、文化財保護に係る市と指定管理者の役割分担のあり方等を検討した。</p>			
R2(2020)	<p>➤ 指定管理者候補団体等の検討 指定管理者による管理・運営および施設の利用条件に関するフレーム案を作成するとともに、羽州街道歴史まつりにおけるイベントの評価を踏まえ、文化財の柔軟な利活用を念頭に置いた指定管理者候補団体等の検討に着手した。</p>			
R3(2021)	<p>➤ 指定管理者候補団体等の確認と指定管理業務内容の詳細検討 指定管理業務の内容や指定管理料、導入スケジュールに関する基本的な考え方を整理し、指定管理候補者となり得る団体等を調査し、情報提供や意見交換などを行った。また、条例や仕様書等の骨格となる指定管理業務の詳細を検討した。</p>			
R4(2022)	<p>➤ 指定管理に伴う例規整備 ➤ 指定管理者の募集・選定</p>			

【旧松倉家住宅】



I 公共サービスの改革－1 市民協働・官民連携の推進


I-1-(2)-③	コミュニティセンターへの指定管理者制度の導入			担当	生活総務課
取組概要	指定管理者制度未導入のコミュニティセンターについて、地域住民からなる団体と調整を図り、指定管理者制度を導入する。				
取組スケジュール	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	
	-----▶			○	
成果指標	令和4年度(2022)までに、5館に指定管理者制度を導入する。 (外旭川、豊岩、上新城、金足、仁井田) ※岩見三内は連絡所併設のため導入予定なし		指標の現状 平成30年度(2018)～:29館中25館に導入済み 令和2年度(2020)～:31館中26館に導入済み(仁井田地区に導入) 令和3年度(2021)～:31館中27館に導入済み(金足地区に導入)		
年度別取組内容					
R1 (2019)	▶ 地域住民団体との調整・働きかけ 上新城地区コミュニティセンターへの指定管理者制度導入のための前提条件を整理した。また、金足地区コミュニティセンターで令和3年4月の導入を目途に勉強会を開催していくことを確認した。また、仁井田地区コミュニティセンターにおいて令和2年6月の導入に向けて勉強会を開催した。				
R2 (2020)	▶ 指定管理者制度の順次導入 仁井田地区コミュニティセンターに指定管理者制度を導入した。金足地区で、指定管理者制度導入に向け、管理運営委員会を設立した。 上新城地区で、指定管理者制度導入について振興会幹部と協議を行った。 外旭川地区で、指定管理者制度導入に向け町内会連合会に対し勉強会を実施した。				
R3 (2021)	▶ 指定管理者制度の順次導入 金足地区コミュニティセンターに指定管理者制度を導入した。未導入地区において、管理運営委員会への働きかけや勉強会の実施を継続した。				
R4 (2022)	継続実施				

I-1-(2)-④	南浜地域活動支援センターのあり方の検討			担当	障がい福祉課
取組概要	南浜地域活動支援センターの効率的な管理・運営方法について、指定管理者制度の導入も含めて検討する。				
取組スケジュール	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	
	◎				
成果指標	令和元年度(2019)に、施設の管理・運営方法を決定する。		指標の現状 令和元年度(2019)：現状の公設民営による事業実施および直営による施設管理・運営を継続することに決定した。		
年度別取組内容					
R1 (2019)	<p>➤ 施設の管理・運営方法の決定</p> <p>地域活動支援センター事業の運営を受託しているNPO法人や、町内会、地区社会福祉協議会等からの意見聴取等に基づき、南浜地域活動支援センターのあり方については、以下のとおり決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神に障がいのある方を対象とした地域における通所施設としての必要性は高く、今後も、地域活動支援センター事業を継続実施していく必要がある。 ・施設の管理・運営方法については、土地・建物の譲渡や、指定管理者制度の導入を検討したが、地域活動支援センター事業の受託者であるNPO法人秋田けやき会を含め、受入れ団体が見込めないことから、現状の公設民営による事業実施および直営による施設管理・運営を継続する。 ・2階の交流スペースについては、精神障がい以外の当事者団体等からも利用の要望があったことから、引き続き、障がいの有無、種別等にかかわらず、交流を深める事ができる場としての活用を進める。 				

【令和元年度(2019)取組完了】

I 公共サービスの改革－1 市民協働・官民連携の推進

I-1-(2)-⑤		公立保育所のあり方の検討		担当	子ども育成課
取組概要	河辺・雄和地域の5保育所について、一部保育所で入所児童の減少が著しく、集団での活動を通じて社会性等を育む場である保育所の役割を果たせない懸念があるため、配置・運営形態の見直しに取り組む。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
	-----		-----		▶
成果指標	令和元年度(2019)に、配置・運営形態の方針を決定する。		指標の現状		
			準備・手続		
年度別取組内容					
R1(2019)	▶ 配置・運営形態の方針の検討 昨年行った保護者説明会やアンケートを基に、統廃合や分園化等も含め、引き続き、あり方について検討した。				
R2(2020)	▶ 配置・運営形態の再検討 入所児童数の見込みを精査し、配置・運営形態を再検討した。				
R3(2021)	▶ 配置・運営形態の方針の決定 配置・運営形態について、統廃合等も含めて検討を進め、具体的な方針を決定した。				
R4(2022)	▶ 配置・運営形態の方針に基づいた取組の推進 雄和地区においては、3保育所の統合を目指し、保護者や地域住民等との合意形成を図りながら、必要な取組を進める。				

I-1-(2)-⑥	学校給食調理場への民間委託の推進			担当	学事課
取組概要	平成29年度(2017)に策定した民間委託計画に基づき、給食調理業務の新規民間委託を実施するとともに、現計画が終了する令和3年度(2021)までに、新たな民間委託計画を策定する。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022) 	
成果指標	<p>①令和3年度(2021)までに、現計画に基づき、新規民間委託を実施する。</p> <p>②令和4年度(2022)以降の新規民間委託実施に向け、令和3年度(2021)までに、新たな民間委託計画を策定する。</p>		<p>指標の現状</p> <p>①民間委託の実施状況</p> <p>平成30年度(2018)：共同調理場6か所、給食センター1か所 令和元年度(2019)：共同調理場7か所、給食センター1か所 令和2年度(2020)：共同調理場8か所、給食センター1か所 令和3年度(2021)：共同調理場8か所、単独調理場1か所、給食センター1か所</p> <p>②新たな民間委託計画の策定 令和2年度(2020)：策定完了</p>		
年度別取組内容					
R1(2019)	➤ 将軍野中学校・土崎中学校共同調理場調理業務の民間委託実施				
R2(2020)	➤ 東小学校・上北手小学校共同調理場調理業務の民間委託実施 ➤ 新たな民間委託計画の策定 安全安心な学校給食を持続的かつ安定的に提供していくため、令和4年度から8年度までを計画期間として策定した。				
R3(2021)	➤ 桜小学校調理場調理業務の新規民間委託実施 ➤ 新たな民間委託計画に基づき、継続実施 令和4年4月から新規に民間委託を導入する仁井田小学校調理場に係る調理業務受託業者を決定した。				
R4(2022)	継続実施				

I-1-(2)-⑦	千秋公園への官民連携手法の活用検討			担当	公園課
取組概要	千秋公園での民間による飲食店等の収益施設整備（Park-PFI ⁵ 等）に向け、事業提案や公募条件整備に関するサウンディング型市場調査 ⁶ 等を実施することで、民間活力の導入について検討する。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
	○			→	
成果指標	千秋公園再整備基本計画に基づき、民間活力の導入を検討するため、令和元年度(2019)に市場調査を実施する。			指標の現状 令和元年度(2019)：市場調査を実施した。	
年度別取組内容					
R1(2019)	▶ サウンディング型市場調査の実施 「千秋公園における民間活力の導入検討に向けた説明会」の参加者を対象に、民間活力導入に関する意見等の聴取を目的とした個別対話を実施した。（参加団体12団体） 民間事業者を対象に、千秋公園の魅力向上につながる事業アイデアなどについて広く意見や提案を求めるサウンディング型市場調査を実施した。（参加団体2団体） ▶ 先進地視察等 Park-PFI制度活用の先進都市である盛岡市および仙台市への視察を行ったほか、国土交通省による地域プラットフォームサウンディングに出席し、他都市の公開型サウンディング調査を傍聴した。				
R2(2020)	▶ キッチンカーによる飲食店営業の社会実験等の実施 千秋公園の市場性や事業課題の把握、新たな官民連携事業の啓発を目的に、千秋公園東側ポケットパークにおいて、キッチンカーによる飲食店営業に関する社会実験を9月1日から11月1日まで実施した。 千秋公園本丸にある既存建物（旧香雲亭）の利活用に関するサウンディング型市場調査を実施した。				
R3(2021)	▶ 社会実験の継続と民間活力の導入検討 千秋公園の市場性や事業課題の把握、昨年度実施した社会実験結果との比較検討を目的に、千秋公園東側ポケットパークにおいて、キ				

⁵ Park-PFI

平成29年(2017)の都市公園法改正により新設された、公募により公園内に収益施設を設置する者を決定し、園路などの周辺公園施設と一体的に整備することで、許可期間の延伸等の特例が受けられる、民間提案による収益還元型の公園施設事業運営制度である。

⁶ サウンディング型市場調査

事業発案段階や事業化段階において、事業内容や事業スキーム等に関して、直接の対話により民間事業者の意見や新たな提案の把握等を行うことで、対象事業の検討を進展させるための情報収集を目的とした手法のこと。

	キッチンカーによる飲食店営業に関する社会実験を5月1日から7月31日まで実施した。
R4(2022)	継続実施

【キッチンカー社会実験の様子】



I 公共サービスの改革－1 市民協働・官民連携の推進

I-1-(2)-⑧	下水道ポンプ場への官民連携手法の活用 検討			担当	上下水道局 (下水道施設課)
取組概要	市内10か所の下水道ポンプ場の維持管理業務における官民連携手法を検討する。				
取組 スケジュール	R1(2019) -----▶	R2(2020) ○	R3(2021)	R4(2022) ▶	
成果指標	令和4年度(2022)までに、官民連携手法を決定する。		指標の現状		
			令和2年度(2020):事業手法を包括的民間委託に決定した。		
年度別取組内容					
R1(2019)	▶ 官民連携手法検討事前調査業務の実施 官民連携手法の検討・方針決定に向けた事前調査を行い、PPP/PFI手法における複数の事業計画案を策定の上、経済性、維持管理の確実性、各方面への影響、官民の役割およびリスク分担などを検討し、事業手法を絞り込んだ。				
R2(2020)	▶ 事業手法の決定 庁内検討組織(秋田市PPP/PFI手法導入検討協議会)および導入可能性調査を経て、事業手法を「包括的民間委託」に決定した。				
R3(2021)	▶ 事業費の積算、事業者の公募準備 発注関係書類作成支援業務委託により、サウンディング調査、全体事業費の試算および発注、契約書類を作成した。				
R4(2022)	▶ 事業者の公募・選定、契約締結交渉 事業者の公募・選定、契約締結交渉を行う。				

I-1-(2)-⑨	仁井田浄水場への官民連携手法の活用検討		担当	上下水道局(仁井田浄水場建設室)
取組概要	仁井田浄水場の更新に当たり、DB ⁷ 、PFIなどの官民連携による事業方式を含め、費用総額、民間とのリスク分担等の観点から、事業手法を検討する。			
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
	○			→
成果指標	官民連携導入可能性調査の結果を踏まえ、令和元年度(2019)に事業手法を決定する。		指標の現状 令和元年度(2019):事業手法をDB方式と従来方式の複合型に決定した。	
年度別取組内容				
R1(2019)	▶ 基本設計、事業手法の決定 基本設計を行ったほか、官民連携導入可能性調査の結果を踏まえた検討を重ね、事業手法を「DB方式と従来方式の複合型」に決定した。			
R2(2020)	【以下、DB方式分】 ▶ 実施方針・要求水準書・入札説明書等の作成			
R3(2021)	▶ 事業者選定委員会の設置・開催、公告 事業者選定委員会による協議・検討を経て、公告(募集要項、要求水準書、事業者選定基準、契約書(案)等の公表)を行った。			
R4(2022)	▶ 提案事業の審査・選定、優先交渉権者の決定、契約締結			


【仁井田浄水場】



⁷ DB
Design Buildの略で、公共施設等の設計・建設を民間事業者に一括発注・性能発注する手法のこと。

2 公共施設マネジメントの推進

(1) 公共施設の総合的な管理

I-2-(1)-①	公共施設等総合管理計画の改訂・推進		担当	財産管理活用課
取組概要	総務省が示す公共施設等総合管理計画策定指針および本市の個別施設計画を踏まえ、平成28年度(2016)に策定した秋田市公共施設等総合管理計画を改訂するとともに、公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進することで、市民ニーズへの適切な対応や将来負担の軽減を図る。			
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022) 
成果指標	令和3年度(2021)までに、秋田市公共施設等総合管理計画を改訂する。		指標の現状 改訂	
年度別取組内容				
R1(2019)	<p>▶ 中長期的な経費を分析</p> 将来的な見直しを検討している施設について、今後の方向性を確認するとともに、今後必要となる更新・改修費用を把握した。			
R2(2020)	<p>▶ 総合管理計画改訂に向けた調査</p> 中長期的な経費の見直しにおける充当可能財源や、国の「ユニバーサルデザイン2020行動計画」を踏まえた取組の把握に努めたほか、施設の現状を取りまとめ、施設所管部局との情報共有を図るなど、計画改訂に向けた準備を進めた。			
R3(2021)	<p>▶ 総合管理計画の改訂および推進</p> パブリックコメントの募集等を経て、総合管理計画の時点修正を主とする中間年度見直しを実施した。また、計画推進のため、公共施設等最適化専門部会において情報共有しながら、長寿命化対策の基本的な考え方を整理した。			
R4(2022)	<p>▶ 長寿命化・再配置の推進</p> 総合管理計画に基づき、長寿命化や施設の再配置などを推進するため、長寿命化対策の一環として、建築物の躯体評価を実施するとともに、日常点検の徹底に向けた体制整備を行う。			

I-2-(1)-②	個別施設計画の実施		担当	財産管理活用課ほか計画所管課	
取組概要	施設保有量の見直しや再編などを進めるため、公共施設等総合管理計画に定めたマネジメント方針に従い、小・中学校や市営住宅をはじめとする各個別施設計画を着実に実施する。 ①市民サービスセンター ②コミュニティセンター ③地域センター ④その他集会施設 ⑤ホール等 ⑥スポーツ・レクリエーション・観光施設 ⑦博物館・図書館 ⑧保健・福祉系施設 ⑨保育所等 ⑩子育て支援系施設 ⑪学校教育系施設 ⑫公営住宅 ⑬産業系施設 ⑭供給処理施設 ⑮行政系施設 ⑯その他施設 ⑰道路・橋りょう ⑱公園 ⑲上水道 ⑳下水道				
取組	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
スケジュール	○			▶	
成果指標	個別施設計画に基づく事業を着実に実施する。		指標の現状 継続実施		
年度別取組内容					
R1(2019)	▶ 個別施設計画に基づく事業実施 全部局で策定が完了した個別施設計画については、公共施設等総合管理計画との整合性を図りながら、事業を着実に実施するとともに、必要に応じて見直しを行った。				
R2(2020)	継続実施				
R3(2021)	▶ 個別施設計画に基づく事業実施 公共施設等最適化専門部会において情報共有しながら、各部局の個別施設計画に基づくマネジメントに全庁的に取り組んだ。				
R4(2022)	継続実施				

(2) 公共施設のあり方の見直し

I-2-(2)-①	未利用施設の利活用と解体の検討・実施		担当	財産管理活用課
取組概要	市が保有する未利用施設の利活用の促進と、不用施設の解体整理を行う。また、利活用を促進するため、公募の周知方法等についても検討する。			
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
成果指標	未利用施設の利活用又は解体を検討・実施する。	指標の現状		
		平成29年度(2017)～:未利用施設7棟(うち不用施設3棟) 令和2年度(2020)～:未利用施設3棟(うち不用施設1棟) 令和3年度(2021)～:未利用施設2棟(うち不用施設1棟)		
年度別取組内容				
R1(2019)	▶ 未利用施設の利活用促進 個別の未利用施設について、民間を含めた利活用を検討し、利活用希望がない場合には解体を検討した。今年度は、未利用となっている旧小学校の一部(旧種平小学校校舎)について、屋根を補修して利活用に備えたほか、旧森林総合利用施設を解体する方向で検討した。また、不用となった施設の財産管理処分の基本方針について、全庁統一的な基本ルールを整理し、庁内に周知した。			
R2(2020)	▶ 未利用施設の利活用促進 未利用となっている旧川添小学校の一部および旧種平小学校を利活用する各事業者と貸付契約を結んだ。 旧牛島児童館、旧森林総合利用施設(管理棟、トイレ)、雄和山水荘を解体した。			
R3(2021)	▶ 未利用施設の解体 旧雄和市民センターを解体した。			
R4(2022)	▶ 未利用施設の解体の検討 未利用となっている旧岩見三内クリニックおよび旧雄和ふるさとセンター(不要施設)の解体を検討していく。			

I-2-(2)-②		雄和糠塚地区民間資本活用施設用地の売却		担当	観光振興課
取組概要		現在の使用者と交渉を進め、同用地の用途を廃止し、売却する。			
取組		R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
スケジュール		-----	-----	-----▶	○
成果指標		令和4年度(2021)に土地売却を完了する。		指標の現状 準備・手続	
年度別取組内容					
R1(2019)		▶ 現使用者との交渉 現使用者に対して、取得意思および取得時期等を確認し、用地の売却に向けた協議を継続し、必要な準備・手続を進めた。			
R2(2020)		▶ 現使用者との交渉 用地売却に向けた協議を継続し、現使用者に取得意思があることを確認したが、来年度ではなく先延ばしして欲しいと回答を得た。			
R3(2021)		▶ 現使用者との交渉 現使用者に対して、取得意思および取得時期等を確認し、用地の売却に向けた協議を継続したが、もう少し先延ばしして欲しいと回答を得た。			
R4(2022)		▶ 土地売却の完了			

I-2-(2)-③		河辺多目的総合センター・雄和山水荘の解体		担当	産業企画課
取組概要		施設の廃止に向けた協議・手続を進めており、今後は解体処分する。			
取組		R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
スケジュール		○	◎		
成果指標		①令和元年度(2019)に河辺多目的総合センターを解体する。 ②令和2年度(2020)に雄和山水荘を解体する。		指標の現状 ①河辺多目的総合センター 令和元年度(2019):解体完了 ②雄和山水荘 令和2年度(2020):解体完了	
年度別取組内容					
R1(2019)		▶ 河辺多目的総合センターの解体 12月に解体工事が完了した。 雄和山水荘は、令和2年度の解体に向け、予算要求等の準備・手続を進めた。			
R2(2020)		▶ 雄和山水荘の解体 10月に解体工事が完了した。			

【令和2年度(2020)取組完了】

I 公共サービスの改革－2 公共施設マネジメントの推進

I-2-(2)-④	配水ポンプ施設の廃止		担当	上下水道局(水道維持課)
取組概要	配水管整備、水需要等の現状を踏まえ、ポンプ施設の廃止を行う。			
取組 スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
	○	→	→	→
成果指標	令和4年度(2022)までに、3か所のポンプ施設を廃止する。		指標の現状 平成29年度(2017):27施設 平成30年度(2018):27施設 令和元年度(2019):26施設(大平台ポンプ場廃止) 令和2年度(2020):25施設(戸島ポンプ場廃止) 令和3年度(2021):23施設(桜、女米木ポンプ場廃止)	
年度別取組内容				
R1(2019)	▶ 大平台ポンプ場廃止 大平台ポンプ場については、ポンプ休止状態で機能に支障の無いことを確認し、廃止した。 ▶ ポンプ場廃止の準備・手続 戸島ポンプ場廃止に向け、現場踏査、関係部署との協議、工事設計および工事発注を行い、減圧弁の設置や配水管等の整備を実施した。また、女米木ポンプ場の廃止を検討し、令和4年度までに廃止する方針とした。			
R2(2020)	▶ 戸島ポンプ場廃止			
R3(2021)	▶ 桜ポンプ場、女米木ポンプ場廃止 桜配水塔、女米木配水池に水位調整弁を設置し、各ポンプ場を廃止した。			
R4(2022)	▶ 小山田、萱ヶ沢、下浜ポンプ場の廃止検討			

I-2-(2)-⑤	秋田県流域下水道への接続による単独公共下水道の廃止		担当	上下水道局 (下水道整備課)
取組概要	人口減少下における下水道使用料の伸び悩みや施設の老朽化に伴う改築更新費の増大を踏まえ、秋田県流域下水道との連携により、八橋下水道終末処理場の汚水処理機能を秋田臨海処理センターへ移行、処理施設の廃止・縮小により維持管理費の削減を図る。			
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
成果指標	令和4年度(2022)までに、2か所の単独公共下水道処理場を廃止する。		指標の現状 平成29年度(2017)：5施設 平成30年度(2018)：5施設 令和元年度(2019)：4施設（金足浄化センター廃止） 令和2年度(2020)：3施設（八橋下水道終末処理場廃止）	
年度別取組内容				
R1(2019)	▶ 八橋下水道終末処理場の接続管渠工事等 八橋下水道終末処理場の接続管渠工事および場内改造工事を順次実施した。 ▶ 金足浄化センターの廃止 金足汚水中継ポンプ場の稼働に伴い、金足浄化センターを廃止した。			
R2(2020)	▶ 八橋下水道終末処理場の廃止 八橋汚水中継ポンプ場の稼働に伴い、八橋下水道終末処理場の汚水機能を廃止した。八橋下水道終末処理場の場内改造工事を実施した。			
R3(2021)	▶ 羽川浄化センターのポンプ場化に向けた改造実施設計			
R4(2022)	▶ 羽川浄化センターのポンプ場化に向けた工事実施			

【秋田県流域下水道への接続による単独公共下水道の廃止】



I 公共サービスの改革－2 公共施設マネジメントの推進

I-2-(2)-⑥	農業集落排水処理施設の廃止			担当	上下水道局 (下水道整備課)
取組概要	農業集落排水処理施設の老朽化状況・耐用年数等を考慮しながら、公共下水道への接続や隣接する処理施設との統廃合を行い、維持管理費の削減を図る。				
取組 スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
成果指標	令和4年度(2022)までに、7か所の農業集落排水処理施設を廃止する。		指標の現状 平成29年度(2017):21施設 平成30年度(2018):21施設 令和元年度(2019):20施設(飛沢廃止) 令和2年度(2020):19施設(砂子淵廃止) 令和3年度(2021):16施設(石田坂、豊巻、小山廃止)		
年度別取組内容					
R1(2019)	▶ 公共下水道事業計画区域への編入(笹岡、戸賀沢) ▶ 統合に向けた実施設計(石田坂、豊巻、小山) ▶ 統合工事の完了(砂子淵) ▶ 処理場廃止(飛沢)				
R2(2020)	▶ 公共下水道事業計画区域への編入(下新城南部、下新城北部、上新城、赤平、下三内) ▶ 実施設計(笹岡、戸賀沢) ▶ 管路接続工事(石田坂、豊巻、小山) ▶ 処理場廃止(砂子淵)				
R3(2021)	▶ 実施設計(下新城南部、下新城北部) ▶ 管路接続工事(笹岡、戸賀沢) ▶ 処理場廃止(石田坂、豊巻、小山)				
R4(2022)	▶ 実施設計(上新城) ▶ 管路接続工事(下新城南部、下新城北部) ▶ 処理場廃止(笹岡、戸賀沢)				

I-2-(2)-⑦		金足地域センターのコミュニティセンター化		担当	生活総務課
取組概要	住民ニーズに即した施設配置や運営を実現するため、金足地域センターに係る地域団体および地域住民と調整を進め、コミュニティセンターへ移行する。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
	◎				
成果指標	令和元年度(2019)にコミュニティセンター化を実現する。		指標の現状 令和元年度(2019):コミュニティセンター化を実現した。		
年度別取組内容					
R1(2019)	▶ 地域センターの廃止 1月に金足地域センターを廃止し、金足地区コミュニティセンターの供用を開始した。				

【令和元年度(2019)取組完了】

I-2-(2)-⑧		老人いこいの家のあり方の検討		担当	長寿福祉課
取組概要	市民サービスの維持および老朽化、耐震性の観点から、老人いこいの家の廃止を含めた今後のあり方について検討する。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
	-----▶	◎			
成果指標	令和元年度(2019)までに、施設の廃止を含めたあり方を決定する。		指標の現状 令和2年度(2020):現行施設を継続することに決定した。		
年度別取組内容					
R1(2019)	▶ 廃止を含めたあり方の検討 令和2年度から同4年度までの3年間、指定管理を継続することとし、指定管理者を指定した。 八橋・飯島・大森山それぞれの施設で利用者との意見交換会を2回開催し、施設の廃止についての意見聴取を行った。 施設および附属設備の劣化の進行度・重要度を把握し、修繕や機器交換の必要性を判断することを目的に劣化度調査を実施し、応急措置が必要な施設はないことを確認した。				
R2(2020)	▶ 八橋・飯島・大森山老人いこいの家のあり方の決定 利用者から強い存続希望があること、コロナ禍において高齢者の外出促進と社会参加に寄与する施設であることから、当面の間、施設の老朽化等に十分留意しながら現行施設を継続することとした。				

【令和2年度(2020)取組完了】

I 公共サービスの改革－2 公共施設マネジメントの推進

I-2-(2)-⑨		リフレッシュガーデンのあり方の検討			担当	産業企画課	
取組概要	利用件数が減少傾向にあることから、施設の民間への譲渡や他用途での活用等も含め、今後のあり方について検討する。						
取組	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)			
スケジュール	-----	-----	-----▶	○			
成果指標	令和4年度(2022)までに、施設の廃止を含めたあり方を決定する。		指標の現状				
			準備・手続				
年度別取組内容							
R1 (2019)	<p>▶ 施設の廃止を含めたあり方の検討</p> <p>委託事業者と協議を行いながら施設の修繕を計画的に行うとともに、アンケートの集計・分析を行い、施設の廃止、指定管理者制度への移行を含めたあり方の検討を行った。</p>						
R2 (2020)	<p>▶ 施設のあり方の検討</p> <p>新規顧客獲得策の検討、ニーズ等把握のための利用者アンケート、廃止時の維持管理コストの算出、委託事業者からの意見聴取を実施し、あり方の検討を進めた。</p>						
R3 (2021)	<p>▶ 施設のあり方の検討</p> <p>施設の修繕や委託業者との協議、自動販売機の設置など、利用者の増加と利用環境の向上に向けた取組を行った。また、ニーズ等把握のための利用者アンケートの実施および集計・分析を行い、指定管理者制度への再移行も見据え、あり方の検討を進めた。</p>						
R4 (2022)	▶ 施設のあり方の決定						

I-2-(2)-⑩		勤労者体育センターのあり方の検討			担当	産業企画課	
取組概要	老朽化の進行と利用者の減少等の課題があるため、将来的な施設の存廃や移設改築等も含め、施設のあり方について検討する。						
取組	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)			
スケジュール	-----	-----	-----▶	○			
成果指標	令和4年度(2022)までに、施設の廃止を含めたあり方を決定する。		指標の現状				
			準備・手続				
年度別取組内容							
R1 (2019)	<p>▶ 施設の廃止を含めたあり方の検討</p> <p>敷地が狭隘で十分な駐車スペースが確保できないことや利用者が減少していること等の課題もあることから、将来的な施設の存廃や移設改築、スポーツ施設としての位置づけ等も含め、今後の施設のあり方について広範に検討した。</p>						
R2 (2020)	<p>▶ 施設の廃止を含めたあり方の検討</p> <p>茨島体育館など、他のスポーツ施設の将来的な方針や現状を勘案し、施設のあり方についてスポーツ振興課と協議を行った。</p>						

R3(2021)	<p>➤ 施設の廃止を含めたあり方の検討</p> <p>指定管理者との協議や令和2年度の利用状況の分析など、当該施設の課題やニーズ等の把握に向けた取組を行ったほか、正面ポーチの漏水や館内床板の損傷を修繕するなど、施設の利用環境向上に努めた。</p>
R4(2022)	<p>➤ 施設の廃止を含めたあり方の決定</p>

3 市民満足度の向上

(1) 窓口や行政サービスの改善

I-3-(1)-①	入札・契約制度の改善			担当	契約課
取組概要	総合評価落札方式 ⁸ における施工計画型の適用工事を拡大する。また、工事に係る業務委託に総合評価落札方式を導入するとともに、最低制限価格制度の見直しを図る。さらに、プロポーザル方式の実施要領および当該方式の標準的な契約事項を作成する。				
取組スケジュール	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	
	-----▶			○	
成果指標	①令和元年度(2019)に、総合評価落札方式に施工計画型の適用基準を適用する。 ②令和4年度(2022)までに、工事に係る業務委託に総合評価落札方式を導入する。 ③令和元年度(2019)までに、工事に係る業務委託の最低制限価格の基準を引き上げる。 ④令和元年度(2019)に、プロポーザル方式の実施要領、契約事項の適用を開始する。		指標の現状 ①施工計画型の適用基準を適用 令和元年度(2019)：適用済み ②業務委託に総合評価落札方式を導入 準備・手続 ③最低制限価格の基準引上げ 令和元年度(2019)：引上げ済み ④プロポーザル方式の実施要領、契約事項の適用 令和元年度(2019)：適用済み		
年度別取組内容					
R1 (2019)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 総合評価落札方式（簡易型）の見直し 設計額5,000万円以上の工事については、総合評価落札方式（簡易型）により落札者を決定しているが、建設業界の人手不足や災害対応などに伴い入札不調が多いことから、設計額を含め、簡易型の評価方式を見直した。 ▶ 総合評価落札方式（施工計画型）の適用基準を適用 総合評価落札方式実施要綱に施工計画型の適用を判断する基準を新たに盛り込み、事業担当課等に評価項目の設定を働きかけた。 ▶ 工事に係る業務委託の最低制限価格基準の引き上げ 測量・建設コンサルタント等業務に係る最低制限価格の設定基準を、秋田県と同等の価格帯まで引き上げた。 				

⁸ 総合評価落札方式

入札価格のほかに、価格以外の要素（地域貢献度や技術力等）も評価項目とした総合的な評価のもと、総合点数の最も高い者を落札者とする方式のこと。評価方式は、工事の規模や内容、技術的な工夫の余地等に応じて、簡易型か施工計画型のいずれかの方式を選択する。簡易型は、工事内容の施工の確実性を確保するため、企業の施工実績や配置予定技術者の能力、地元貢献度、労働環境等により評価を行う方式のこと。施工計画型は、工程や品質の管理、環境の維持や交通の確保等、施工上特に配慮を要する工事について、配慮事項に係る簡易な施工計画を求めて評価を行う方式のこと。

	<p>➤ 業務委託の評定制度および低入札価格調査制度の検討 測量・建設コンサルタント等業務請負契約を総合評価落札方式の対象とする方式の導入に向け、令和4年度(2022)までに成績評定および検査体制の整備を進めることとした。</p> <p>➤ プロポーザル方式の実施要領、契約事項を策定し、適用を開始</p>
R2(2020)	<p>➤ 工事に係る業務委託の成績評定等検査体制の検討 工事に係る業務委託について、秋田県の試行状況を確認し、実施状況、課題などを調査した。</p>
R3(2021)	<p>➤ 工事に係る業務委託の評定精査 工事に係る業務委託の総合評価落札方式導入について、秋田県の状況を確認し、成績評定の成り立ちなどを調査した。</p>
R4(2022)	<p>➤ 工事に係る業務委託の検査体制の確立 工事に係る業務委託の検査体制について検討しながら、総合評価落札方式における評価方法について、幅広く検討する。</p>

I-3-(1)-②	窓口業務のあり方の検討			担当	市民課
取組概要	総合窓口支援システム、フロアマネジャー、番号発券機等を活用した総合窓口を平成28年(2016)に導入したが、2年を経過したため、その効果の検証を行う。国が行政サービスのアウトソーシングを推進していることから、窓口業務の今後の運用について民間委託等を含めたあり方を検討する。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
	-----▶			○	
成果指標	令和4年度(2022)までに、民間委託等を含めたあり方を決定する。		指標の現状 準備・手続		
年度別取組内容					
R1(2019)	<p>▶ 総合窓口業務の検証 フロアマネジャーの配置についてテスト運用を行い、適切な配置になるよう見直した。</p> <p>▶ 先進事例の調査・研究、庁内意見集約 窓口業務の効率化に向け、AI⁹・RPA¹⁰等の新技術の活用について先進地視察を行った。</p> <p>▶ 庁内意見集約 窓口業務の民間委託の可否について各課へ照会を行った。また、新たに検討委員会を立ち上げ、民間委託等を含めたあり方を関係部局で横断的に検討する体制を整備し、必要な検討を行った。</p>				
R2(2020)	<p>▶ 窓口における電子申請サービスの検討 窓口業務のあり方庁内検討委員会において、窓口業務への電子申請導入を検討し、56業務を電子申請が可能と判断した。また、検討委員会で民間委託を含めた窓口業務のあり方について、調査・研究を行った。</p> <p>▶ 民間委託等を含めたあり方の検討 民間委託を含めた窓口業務のあり方について、他都市の窓口業務の状況照会等により調査・研究を行い、民間委託の実現可能性が高い業務の選定を行った。</p> <p>▶ 市民課総合窓口混雑状況確認システムの導入 市民課総合窓口の混雑状況をホームページで確認できるシステムを2月に導入した。待ち人数や呼出番号をリアルタイムで確認できるようになったことで、混雑時の来庁を避けることや、待ち時間を有効活用することが可能になった。</p>				
R3(2021)	▶ 窓口における電子申請サービスの開始				

⁹ AI
Artificial Intelligence の略で、人工知能のこと。

¹⁰ RPA
Robotics Process Automation の略で、定型的なパソコン操作をソフトウェアのロボットにより自動化する技術のこと。

	<p>市民課・市民税課において、マイナンバーカードを活用した各種証明書のオンライン申請サービスの運用を開始した。</p> <p>➤ 民間委託等を含めたあり方の検討 窓口業務のあり方庁内検討委員会で、民間委託を含めた窓口業務のあり方について調査・研究を行った。</p> <p>➤ キャッシュレス決済の導入 市民課ほか9つの窓口で交付している各種証明書の手数料等の支払いについて、クレジットカードや電子マネー等によるキャッシュレス決済を導入した。</p> <p>➤ 新総合窓口支援システムの稼働 OCRを活用した新たな総合窓口支援システムを構築し、1月から運用を開始した。</p>
R4(2022)	<p>➤ 民間委託等を含めたあり方の決定 本市窓口業務について、民間委託等を含めた中長期的なあり方を決定する。</p>

I 公共サービスの改革－3 市民満足度の向上

I-3-(1)-③	中小企業関係等申請窓口のあり方の検討		担当	商工貿易振興課
取組概要	中小企業融資あっせんの申請者の利便性と行政サービスを向上するため、融資あっせん業務について、民間委託を検討する。			
取組スケジュール	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
成果指標	令和4年度(2022)に民間委託を実施する。		指標の現状 準備・手続	
年度別取組内容				
R1 (2019)	<p>▶ 民間委託を含めたあり方の検討</p> <p>業務委託先予定者との協議を行ったほか、手続の簡素化に向け、申請様式や添付書類などについて秋田県信用保証協会と協議した。また、年度末に開催される金融機関との意見交換会で協議した。</p>			
R2 (2020)	<p>▶ 民間委託を含めたあり方の検討</p> <p>将来的な業務委託も見据えて、業務の効率化のため「融資あっせん申請書」の様式について、秋田県信用保証協会と協議し、様式を定めた。また、年度末に開催される金融機関との意見交換会で協議した。</p> <p>コロナ禍において、中小企業融資あっせん制度が事業者の資金繰りを支える柱となっており、景気動向や事業者ニーズの把握にもつながること、また、業務委託先予定者の業務量が増加しており、現状では融資あっせん業務の受託が困難であることから、当面は現状のとおり市の窓口で対応することとした。</p>			
R3 (2021)	<p>▶ 民間委託を含めたあり方の検討</p> <p>コロナ禍を受けて国や県が実施した無利子融資などの有利な制度によって、本市の融資あっせん制度の申請数が大幅に減少した。また、業務委託予定事業者および秋田県信用保証協会と協議を行ったところ、協議先の業務量が増加し、今後の見通しも不透明であり、現時点では受託は困難であるとの回答を得たことから、市の窓口で対応を継続した。</p>			
R4 (2022)	<p>▶ 民間委託を含めたあり方の再検討</p> <p>今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、民間委託の必要性を検討しながら、デジタル化への対応に向けて調査・研究する。</p>			

I-3-(1)-④	AEDの有効活用に向けた取組強化		担当	消防本部救急課
取組概要	AED操作を含めた救命講習会を開催するとともに、AED設置施設の職員や施設利用者に対する設置場所の認知度の向上と、未設置施設への設置促進を図る。また、イベント等開催時にAEDの貸出しを行うほか、要請を受けた場合は、多数の市民が集う会場へ救急救命士を派遣する。			
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
成果指標	公衆の場で心停止となった傷病者に対する市民のAED使用率を過去の実績以上に向上させる。	指標の現状 AED使用率25%（外傷によるものを除く。） ※平成26年(2014)から平成29年(2017)までの4年間の平均値 AED使用率17% ※令和元年(2019)から令和3年(2021)までの3年間の平均値（70件中12件）		
年度別取組内容				
R1(2019)	<p>➤ AED設置促進 市民が多く集まる施設（駅、空港、学校、スポーツ施設等）に対するAED設置促進を図るとともに、AED操作を含めた緊急時の救護体制を指導した。</p> <p>➤ AED貸出事業の充実・周知 AED貸出事業を開始し、各種メディアを活用して広く市民に周知したところ、町内会やスポーツ大会、健康イベントの開催団体等から多数の貸出依頼があった。 秋田駅ぼぼろ一どにおいて、市民に対してAEDの設置箇所等に関する意識調査を実施し、AEDに係る制度の充実や効果的な周知方法の調査・研究に向けた基礎資料とした。</p> <p>➤ AED操作指導・救命講習会の充実 小中学生の心臓震盪やランニング中の心停止が発生していることから、学童や生徒、教職員、スポーツ少年団関係者に対する救命講習会やAED操作について指導を強化した。今年度は中学校における救命体制の強化を目的に、養護教諭を対象とした「応急手当普及員講習」を開催した。</p> <p>➤ 救命のための取組強化 イベント等開催時における心停止事例については、市民による偶発の自発的協力のみで頼るのではなく、準備された戦略的な救命体制により対応することを図った。また、要請によりイベント等へ救急救命士等を派遣した。</p>			
R2(2020)	<p>➤ AED設置促進 機会ごとにAED設置の必要性を訴えるとともに、AED設置施設</p>			

I 公共サービスの改革－3 市民満足度の向上

	<p>標章を交付した。</p> <p>➤ AED貸出事業の充実・周知 AED貸出事業について、消防本部ホームページや救命講習会等で市民に周知するとともに、イベント関係者等に働きかけを行った。</p> <p>➤ AED操作指導・救命講習会の充実 市民からの要望による救命講習会は、規模を縮小し、ソーシャルディスタンスに配慮して実施した。また、成人に対する応急手当（心肺蘇生とAEDの操作）についての動画を消防本部ホームページに掲載した。</p> <p>➤ 救命のための取組強化 イベント開催時には、要請があれば救急救命士等を救護員として派遣した。</p>
R3(2021)	<p>➤ AED設置促進 新型コロナウイルス感染症の影響により救命講習会は規模縮小や中止となったものの、同講習会や消防本部ホームページで事業所等への設置を促進するとともに標章の交付を行った。</p> <p>➤ AED貸出事業の充実・周知 消防本部ホームページおよび救命講習会で市民に周知した。</p> <p>➤ AED操作指導・救命講習会 不特定多数の受講者による相互感染を防止するため、事業所等から要望があり、個々に判断した場合に限り、講習会の規模を縮小しソーシャルディスタンス等に配慮した上で実施した。また、消防本部ホームページでも普及啓発を行った。</p> <p>➤ 戦略的な救命体制の構築 新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント開催時における救急救命士等の派遣を中止した。</p>
R4(2022)	<p>今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、上記取組を継続実施する。</p>

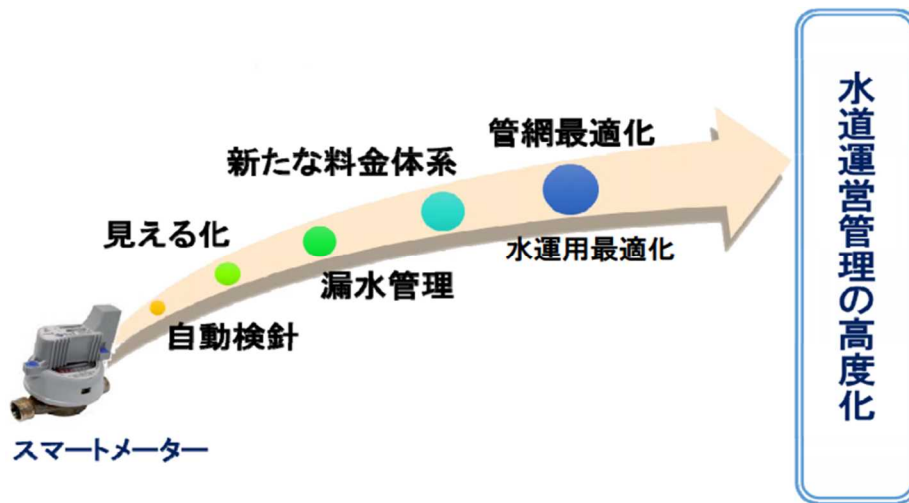
I-3-(1)-⑤	防火対象物に対する査察体制の充実		担当	消防本部予防課
取組概要	違反対象物の公表制度の開始に伴い、より適正な違反是正を行うため、予防技術資格者を各署に増員し、査察体制の充実強化を図る。			
取組スケジュール	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
成果指標	令和4年度(2022)までに、新たに16人が予防技術資格を取得する。	指標の現状 平成29年度(2017):予防技術資格者数57人 ①防火査察専門員57人 ②消防用設備専門員17人(防火査察を兼ねる。) ③危険物専門員9人(防火査察を兼ねる。) 平成30年度(2018):1人増員 ①防火査察専門員58人 ②消防用設備専門員17人(防火査察を兼ねる。) ③危険物専門員10人(防火査察を兼ねる。) 令和元年度(2019):4人増員 ①防火査察専門員62人 ②消防用設備専門員17人(防火査察を兼ねる。) ③危険物専門員11人(防火査察を兼ねる。) 令和2年度(2020):4人増員 ①防火査察専門員66人 ②消防用設備専門員21人(防火査察を兼ねる。) ③危険物専門員15人(うち14人防火査察を兼ねる。) 令和3年度(2021):2人増員 ①防火査察専門員70人 ②消防用設備専門員23人(防火査察を兼ねる。) ③危険物専門員17人(うち15人防火査察を兼ねる。)		
年度別取組内容				
R1 (2019)	▶ 予防技術資格者の増員 予防技術資格者として4人を認定した。			
R2 (2020)	▶ 予防技術資格者の増員 予防技術資格者として4人を認定した。			
R3 (2021)	▶ 予防技術資格者の増員 予防技術資格者として2人を認定した。			
R4 (2022)	継続実施			

I 公共サービスの改革－3 市民満足度の向上

I-3-(1)-⑥	介護施設等への119番出前講座実施		担当	消防本部指令課
取組概要	高齢者ならびに高齢者施設の介護職員を対象に、職員が各施設等に出向き、模擬通報装置を使用した緊急通報要領と、応急手当を学ぶ体験型市民講座を行い、高齢者の安全安心の確保を図る。			
取組スケジュール	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
成果指標	令和4年度(2022)までに、年度内の講座実施件数を50件にする。	指標の現状 平成29年度(2017):18件実施 (施設11、学校3、高齢者団体1、その他3) 平成30年度(2018):26件実施 (施設17、学校1、高齢者団体6、その他2) 令和元年度(2019):34件実施 (施設23、高齢者団体11) 令和2年度(2020):16件実施 (施設10、高齢者団体1、その他5)		
年度別取組内容				
R1 (2019)	▶ 119番出前講座の実施 本年度対象とする施設を抽出し受講案内を送付したほか、過去の受講施設や高齢者団体に再受講の案内を行ない、高齢者ならびに高齢者施設の介護職員を中心に講座を実施した。さらに、未受講団体に積極的なPRを行うとともに、各種イベント参加をとおして講座の広報を実施した。			
R2 (2020)	新型コロナウイルス感染症予防対策を十分に行いながら、上記取組を継続した。			
R3 (2021)	下期において、感染警戒レベルが引下げられた際に案内文を発送し、出前講座の普及啓発を行い、講座を実施した。			
R4 (2022)	継続実施			

I-3-(1)-⑦	水道スマートメーター¹¹導入の検討			担当	上下水道局 (お客様センター)
取組概要	自動検針や漏水の早期発見、水需要データの集積と応用活用のため、先進都市の導入事例の情報収集と併せ、スマートメーター本体価格を調査し、費用対効果を見極めながら導入時期・方法を検討する。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
	-----	-----▶	○	▶	
成果指標	令和4年度(2022)に試験導入の可否を決定する。		指標の現状 1年前倒しし、令和3年度(2021)に試験導入の可否を決定済み。		
年度別取組内容					
R1(2019)	▶ A-Smartプロジェクトへの参加 水道スマートメーターの普及に向けて産学官で構成する協議会(A-Smartプロジェクト)に参加し、他都市の動向や実証実験結果、スマートメーターの本体価格・導入コスト等について調査し、情報収集を図った。				
R2(2020)	▶ 導入効果の検証および導入時期・方法の検討 導入効果等を検討し、令和3年度に試験導入の可否を決定する。なお、試験導入となった場合は令和4年度から実施する。				
R3(2021)	▶ 試験導入の可否決定 A-Smartプロジェクトへの参加や、実証実験を行った都市に試験導入の詳細についての照会をしたほか、電力会社やメーター会社と協議を行い、試験導入を決定した。				
R4(2022)	▶ 試験導入の実施				

【水道スマート化のイメージ】 出典：公益財団法人水道技術研究センター



¹¹ 水道スマートメーター
無線通信を活用し、遠隔で検針できるデータ伝送装置が備えられた水道メーターで、指定された時間間隔でデータを記録・送信できる。

(2) 市民の利便性の向上

I-3-(2)-①	マイナンバーカードの普及促進とマイナポータルやマイキー等の活用			担当	情報統計課
取組概要	マイナンバーカードの申請サポートやPR等で普及促進を図るとともに、マイナポータル ¹² やマイキー ¹³ 等の活用に向け、庁内の推進体制を整えて取組を行う。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	▶
成果指標	令和4年度(2022)までに、マイナンバーカード交付枚数80,000枚を達成する。		指標の現状		
			平成30年度(2018)末： 累計交付枚数38,483枚 年間交付枚数6,320枚 令和元年度(2019)末： 累計交付枚数52,886枚 年間交付枚数14,403枚 令和2年度(2020)末： 累計交付枚数94,528枚 年間交付枚数41,642枚		
年度別取組内容					
R1(2019)	▶ カード申請サポート・出張受付実施 市役所市民課のほか、各市民サービスセンターなどで、マイナンバーカード申請に必要な写真の無料撮影を行うなど、申請サポートし、カードを取得しやすい環境を整備した。 ▶ カード普及促進 マイナンバー制度の要点を紹介する無料出前講座を地域で実施するとともに、ホームページ、広報あきた、地域情報紙および市民向けハンドブックなどを活用して普及促進を図った。 ▶ マイナポータルやマイキーを活用した取組の推進 マイナポータルやマイキー等の活用に向け、庁内の連携推進体制を整え、活用施策を検討したほか、マイナンバーカードを活用したマイナポイントの開始に向けた利用環境の整備を進めた。				
R2(2020)	上記取組を継続したほか、特別定額給付金やマイナポイントの実施に伴うマイナンバーカード申請等の著しい増加に対応するため、窓口および端末数の増設を実施した。				
R3(2021)	令和元年度の取組内容を継続したほか、マイナンバーカードを利用した各種証明のコンビニ交付や健康保険証としての利用についての				

¹² マイナポータル
 政府が運営するオンラインサービスのことで、子育てワンストップサービスの利用や、行政機関からのお知らせの確認などができる。

¹³ マイキー
 マイナンバーカードに搭載されている民間活用可能な電子証明書とICチップの空き領域のこと。

	広報活動を実施した。また、マイナンバーカードを活用したマイナポイントの申請支援や自治体マイナポイント事業の庁内向けの周知を行った。
R4(2022)	令和元年度の取組内容を継続する。

I-3-(2)-②	電子申請サービスの拡充			担当	デジタル化推進本部
取組概要	各種手続の電子化を進めてきたところであり、引き続き、市民ニーズや他都市の状況を踏まえ、ガイドシステムの導入の検討など電子申請サービスの拡充を図る。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	▶
成果指標	令和4年度(2022)の電子申請件数を3,000件以上にする。		指標の現状		
			平成29年度(2017):1,543件 平成30年度(2018):4,075件 令和元年度(2019):4,707件 令和2年度(2020):6,560件		
年度別取組内容					
R1(2019)	<p>▶ 電子申請手続の掘り起こし 電子申請が可能と見込まれる手続に関して、業務担当課へのヒアリング等により情報収集したほか、手続の電子化に向けて担当課をサポートした。産業廃棄物処理に関する計画書や報告書、合葬墓に関する申込み、町内会加入申込の手続を新たに電子化した。</p> <p>▶ ガイドシステムの導入 本庁舎の繁忙期における窓口の混雑緩和および来庁者の利便性向上を図るため、状況に応じた手続内容をスマートフォンやパソコンで案内するガイドシステムを導入することとし、3月に利用開始した。</p>				
R2(2020)	<p>▶ 行政手続のオンライン化に係る詳細調査 市民が市役所に来庁しなくても全ての手続が完結する「デジタル市役所」の実現に向け、各種申請のオンライン化などを検討するための詳細調査を実施した。</p> <p>▶ 申請書等への押印廃止（総務課ほか） 市民・事業者の負担を軽減するとともに、行政手続のオンライン化を進めるため、申請書等への押印廃止を進めた。</p> <p>▶ ガイドシステムの機能充実 保育園に関する情報や入所申請に必要な提出物を案内するガイドを10月に開始した。 マイナンバーカードを利用した転出届のオンライン申請の受付を12月から開始した。</p>				
R3(2021)	<p>▶ 行政手続のオンライン化の推進 オンライン化のための手続調査を実施し、手続のオンライン化の進</p>				

I 公共サービスの改革－3 市民満足度の向上

	捗状況にかかる実態把握を行ったほか、業務担当課へのヒアリング等の情報収集や、新たに電子化する手続について、担当課へのサポートを実施した。
R4(2022)	➤ 行政手続のオンライン化の推進 電子申請届出サービスシステムにおける申請件数は目標を達成したことから、年度内の電子申請可能な手続件数が全件数の5割以上となるよう順次オンライン化を進める。

I-3-(2)-③	オープンデータの推進			担当 デジタル化推進本部
取組概要	市のホームページを通じて、平成30年(2018)7月から公開しているオープンデータ ¹⁴ について、市政の透明性・信頼性の確保や市民協働の取組を推進するため、随時、2次利用可能な形で提供していく。			
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
成果指標	令和4年度(2022)までに、オープンデータがアプリ開発などに2次利用された事例を4件とする。		指標の現状 令和2年度(2020)末:累計活用事例3件	
年度別取組内容				
R1(2019)	<p>▶ オープンデータの掘り起こし・見直し</p> <p>オープンデータ化していないデータについて各課と調整を行い、新たに24件のデータをオープンデータとして公開した。</p> <p>また、Code for Akitaが、秋田市議会議員一般選挙のデータを活用して、選挙ポスター掲示場所一覧の位置(座標)データを新たに公開したほか、昨年に引き続き、竿燈まつりのデータを活用して、町内や団体の竿燈演技場所を検索できるWEBアプリの作成・公開を行った。</p>			
R2(2020)	<p>▶ オープンデータの掘り起こし・見直し</p> <p>オープンデータ化していないデータについて各課と調整を行い、新たに4件のデータをオープンデータとして公開した。</p>			
R3(2021)	<p>▶ オープンデータの掘り起こし・見直し</p> <p>オープンデータ化していないデータについて各課と調整を行い、新たに3件のデータをオープンデータとして公開した。</p> <p>各部局の実務担当者に研修を実施するとともに、令和4年度の(仮称)官民データラウンドテーブルの開催に向けた予算要求を行った。</p> <p>令和4年度の(仮称)官民データラウンドテーブルの実施に向け、民間事業者等との意見交換を行った。</p>			
R4(2022)	<p>▶ オープンデータの掘り起こし・見直し</p> <p>公開していないデータ等について、全庁依頼を行い2次利用可能な形での公開を行うとともに、公開済みのオープンデータの形式も、より利用しやすいものに見直していく。また、(仮称)官民データラウンドテーブルを開催し、民間事業者等が必要とするデータの公開やオープンデータ化に努める。</p>			

¹⁴ オープンデータ
行政が保有するデータを加工・編集等が可能な形で公開し、営利・非営利を問わず、自由な利用を可能にすることにより、新たな価値を創造すること。

Ⅱ 財政運営の改革

1 財政基盤の確立

(1) 中・長期財政見通しに基づく財政運営の推進

Ⅱ-1-(1)-①	中・長期財政見通しの活用による財政運営の健全性の確保			担当	財政課
取組概要	当初予算をベースに、今後予定されている制度改正や大規模事業および公共施設等総合管理計画で想定される公共施設の改修に係る経費等を見込んだ中・長期財政見通しを毎年作成し、次年度以降の予算フレームとして活用する。				
取組スケジュール	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	
成果指標	主要2基金（財政調整基金 ¹⁵ および減債基金 ¹⁶ ）の残高について、毎年度一般会計予算規模の5%程度を維持する。	指標の現状 平成29年度(2017)：一般会計予算規模の8.8% 2基金残高11,039,534千円 予算規模 125,920,000千円 平成30年度(2018)：一般会計予算規模の7.5% 2基金残高9,546,045千円 予算規模127,730,000千円 令和元年度(2019)：一般会計予算規模の6.2% 2基金残高8,323,652千円 予算規模134,500,000千円 令和2年度(2020)：一般会計予算規模の4.9% 2基金残高6,803,024千円 予算規模139,600,000千円 令和3年度(2021)：一般会計予算規模の3.7% 2基金残高5,104,167千円 予算規模136,850,000千円			
年度別取組内容					
R1 (2019)	▶ 予算フレームへの反映 中・長期財政見通しを次年度以降の予算フレームとして活用し、将来にわたり安定的で持続可能な財政運営を確保した。 ▶ 中・長期財政見通しの見直しおよび公表 現行の税財政制度および社会保障制度によることを基本としつつ、今後予定されている制度改正等を可能な限り反映させた、中・長期財政見通しを作成・公表し、財政運営の健全性を確保するための指				

¹⁵ 財政調整基金

地方公共団体における年度間の財源の不均衡を調整するための基金のこと。

¹⁶ 減債基金

地方債の償還を計画的に行うための資金を積み立てる目的で設けられる基金のこと。

	針として活用するとともに、市民に対する財政状況の情報提供手段の一つとした。
R2(2020)	<p>▶ 予算フレームへの反映</p> <p>中・長期財政見通しを次年度以降の予算フレームとして活用し、将来にわたり安定的で持続可能な財政運営を確保した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、市税収入の大幅な減少が見込まれ、主要2基金の取崩しによる収支不足の補てんが想定されたため、減収補てん債などの活用による歳入確保を検討したほか、不急な事業の取り止めや管理的経費の執行留保など、徹底した歳出抑制に取り組み、主要2基金の取崩しを最小限にするよう努めた。</p>
R3(2021)	<p>▶ 予算フレームへの反映</p> <p>中・長期財政見通しを次年度以降の予算フレームとして活用し、将来にわたり安定的で持続可能な財政運営を確保した。</p> <p>▶ 中・長期財政見通しの見直しおよび公表</p> <p>現行の税財政制度および社会保障制度によることを基本としつつ、今後予定されている制度改正等を可能な限り反映させた、中・長期財政見通しを作成・公表し、財政運営の健全性を確保するための指針として活用するとともに、市民に対する財政状況の情報提供手段の一つとした。</p>
R4(2022)	継続実施

II-1-(1)-②	市債残高の抑制		担当	財政課
取組概要	事業に応じた償還期間の設定、繰上償還等の検討・実施、減債基金繰入金（合併特例債 ¹⁷ 分）の充当等により、市債残高を抑制する。			
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
成果指標	令和4年度(2022)末の市債残高を1,324億円以下に抑制する。		<p>指標の現状</p> <p>平成29年度(2017)末:1,382億円 平成30年度(2018)末:1,363億円 令和元年度(2019)末:1,346億円 令和2年度(2020)末:1,395億円</p>	
年度別取組内容				
R1(2019)	<p>▶ 事業に応じた償還期間の設定</p> <p>▶ 繰上償還等による利子の軽減</p> <p>▶ 減債基金繰入金（合併特例債分）の充当</p>			
R2(2020)	継続実施			
R3(2021)	〃			
R4(2022)	〃			

¹⁷ 合併特例債
 市町村合併後の地域振興や旧地域間の格差是正などのために起債できる地方債のこと。合併後10か年（延長して最長15年）に限り、市町村建設計画に基づく事業の財源とすることができる。

(2) 特定目的基金の見直し

II-1-(2)-① 特定目的基金の見直し		担当	財政課ほか基金所管課	
取組概要	誰もが安心して利用できる公共交通の実現に向け、公共交通の活性化を図るため、公共交通活性化基金を設置するとともに、特定目的基金 ¹⁸ の残高や今後の事業計画の見込みなどを勘案し、設置目的に応じた必要額の確保等を図る。また、基金を活用した事業実施などが見込まれない特定目的基金については廃止する。			
特定目的基金名	平成31～R4年度の累計積立額	概要		
公共交通活性化基金	10億円	令和元年度(2019)に新設		
公共施設等整備基金	14億円	公共施設等の改修費等の積立		
公立大学法人支援基金	4億円	大学施設の修繕費等の積立		
美術作品等取得基金	3億円	美術作品等の取得費等の積立		
地域振興基金	一部を移管	地域振興基金の一部(家庭ごみ処理手数料相当分)を一般廃棄物処理施設整備基金へ移管		
一般廃棄物処理施設整備基金				
土地開発基金	—	令和元年度(2019)に廃止		
緑あふれるまちづくり基金	—	令和3年度(2021)に廃止		
文化振興基金	—	現状のとおり		
スポーツ振興基金	—	現状のとおり		
子ども福祉医療基金	—	現状のとおり		
取組	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
スケジュール	○			→
成果指標	令和4年度(2022)までに上記の積立等を実施する。		指標の現状	
			—	
年度別取組内容				
R1(2019)	<p>▶ 公共交通活性化基金の新設(交通政策課) マイタウン・バスの新設路線や交通系ICカードの導入、地域が主体となる新たな生活交通など、新たな事業等に要する経費の一部に充てるため、公共交通の活性化に係る新たな基金を4月に設置した。今後10年間の財政需要を見通し、令和4年度(2022)までに累計で10億円を積み立てることとし、今年度は5億円を積立てた。</p> <p>▶ 公共施設等整備基金の確保(財政課) 公共施設等総合管理計画において、公共施設等の更新に係る財政需要は今後増大すると見込まれていることから、改修等に要する経費の財源として活用するため、令和4年度(2022)までに累計で14億円を積み立てることとし、今年度は3億5千万円を積立てた。</p>			

¹⁸特定目的基金

特定の目的のために財産を維持し、資金を積み立てるために設置される基金のこと。

	<p>➤ 公立大学法人支援基金の充実（企画調整課） 秋田公立美術大学の施設・設備の老朽化に対し、今後も継続的な教育環境整備が必要であることから、修繕費等の安定した財源確保のため、秋田公立美術大学の修繕計画に基づき、令和4年度(2022)までに累計で4億円を積立てることとした。</p> <p>➤ 美術作品等取得基金の充実（千秋美術館） 美術作品等の収集方針に則り、体系的にコレクションを形成し、展示公開の機会の拡充を図るとともに、収蔵作品の修復費等に充てるため、令和4年度(2022)までに累計で3億円を積立てることとした。</p> <p>➤ 土地開発基金の廃止（財産管理活用課） 土地開発基金について、平成27年度(2015)以降活用されておらず、今後、同基金を活用した公有地の先行取得の見込みもないことから、平成30年度(2018)に条例廃止の上、同基金を廃止（4月1日施行）し、令和元年度(2019)当初予算一般会計に残高5億円を繰り入れた。</p> <p>※毎年度の実際の積立額は、収支状況を踏まえて2月補正で判断する。</p>
R2(2020)	<p>➤ 公共施設等整備基金の積立て（財政課） 3億5千万円を積立て、累計積立額を7億円とした。</p>
R3(2021)	<p>➤ 公共交通活性化基金の積立て（交通政策課） 5億円を積立て、累計積立額を10億円とした。</p> <p>➤ 公共施設等整備基金の積立て（財政課） 7億円を積立て、累計積立額を14億円とした。</p> <p>➤ 公立大学法人支援基金の積立て（企画調整課） 2億円を積立てた。</p> <p>➤ 美術作品等取得基金の充実（千秋美術館） 1億5千万円を積立てた。</p> <p>➤ 緑あふれるまちづくり基金の廃止（財政課） 令和3年度(2021)までに全額を取り崩すことにより所期の目的を達成することから、条例廃止の上、同基金を廃止（令和3年4月1日施行）した。</p>
R4(2022)	<p>➤ 上記の積立てを実施</p> <p>➤ 地域振興基金の一部（家庭ごみ処理手数料相当分）を一般廃棄物処理施設整備基金へ一元化（財政課・環境都市推進課） 家庭ごみ処理手数料相当分の見える化について、その運用方法を見直しし、基金への積立てを一元化する。</p>

(3) 市出資団体の経営の健全化

Ⅱ-1-(3)-①	市出資団体の経営の健全化		担当	総務課ほか市出資団体所管課
取組概要	市が出資する公社・第三セクターについて、それぞれの課題を把握し、経営の健全化に向けた具体策を順次実施する。 対象団体 ① (公財) 秋田市総合振興公社 (総務課) ② (一財) 秋田市勤労者福祉振興協会 (企業立地雇用課) ③ (公財) 秋田観光コンベンション協会 (観光振興課) ④ (一財) 秋田市駐車場公社 (都市総務課) ⑤ 河辺地域振興 (株) (観光振興課) ⑥ (株) 雄和振興公社 (観光振興課) ⑦ 太平山観光開発 (株) (建設総務課)			
取組スケジュール	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
成果指標	債務超過を解消する。		指標の現状 平成29年度(2017)決算:債務超過 2 団体 平成30年度(2018)決算:債務超過 2 団体 令和元年度(2019)決算:債務超過 3 団体 令和 2 年度(2020)決算:債務超過 3 団体	
年度別取組内容				
R1 (2019)	▶ 課題把握・経営健全化 前年度の財政状況、事業報告書を確認するとともに、各団体における課題を把握し、経営の健全化に向けた具体策の実施を促した。			
R2 (2020)	▶ 課題把握・経営健全化 上記取組を継続したほか、本市施設の指定管理者となっている団体に対し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため休館した場合の対応について通知し、適切な対応を求めた。 指定管理者制度導入施設における市の休業要請等に伴う影響について調査し、現状把握を行った。 新型コロナウイルス感染症の影響による経営環境の悪化に伴い、1 団体が債務超過となった。			
R3 (2021)	▶ 課題把握・経営健全化 経営の健全化に向け、前年度の財政状況、事業報告書を確認するとともに、各団体における課題を把握し、自主的な経営改善を促進した。また、コロナ禍において債務超過が拡大した団体については、経営状況の改善に向け、外部有識者を交え、経営健全化方針の策定等を行った。			
R4 (2022)	継続実施			


2 歳入の確保

(1) 新規財源の開拓

Ⅱ-2-(1)-①	ガバメントクラウドファンディングの実施			担当	人口減少・移住定住対策課
取組概要	ふるさと納税に係る新たな取組として、実施事業を具体的に示して寄附を募るガバメントクラウドファンディング ¹⁹ の手法を導入し、新規財源の開拓を図る。				
取組スケジュール	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	
	-----▶	○		▶	
成果指標	令和元年度(2019)から令和4年度(2022)までの4年間の寄附総額1,000万円を確保する。			指標の現状 令和2年度(2020):寄附額164万円 令和3年度(2021):寄附額72万円	
年度別取組内容					
R1 (2019)	ガバメントクラウドファンディングにより寄附を募り、「希少動物種(ユキヒョウ)保存事業」を実施することとしていたが、ユキヒョウ導入の目処が立っておらず、庁内調整や寄附募集期間などに要する期間等を踏まえ、令和2年度に実施することとした。				
R2 (2020)	<p>▶ 実施事業の決定・寄附募集・PR</p> <p>クラウドファンディング型ふるさと納税活用事業(商工貿易振興課)で選定したプロジェクト「働くひとたちを応援するため、お薬を安心して手に入れることができる環境を作りたい!」について、秋田県内発のカフェ併設薬局の開局を目指す起業家を支援するため、寄附を募り、164万円を確保した。</p> <p>「希少動物種(ユキヒョウ)保存事業」については、海外動物園からのメス個体導入が困難であり、国内で新たな個体が見つかったことにより国内導入に切り替えたことから、ガバメントクラウドファンディングを実施しないこととした。</p>				
R3 (2021)	<p>▶ 実施事業の決定・寄附募集・PR</p> <p>クラウドファンディング型ふるさと納税活用事業(商工貿易振興課)で選定したプロジェクト、「秋田市内の明治に建てられた建物を改修してミニシアターを運営します!」について、72万円を確保した。</p>				
R4 (2022)	<p>▶ 実施事業の決定・寄附募集・PR</p> <p>上記取組を継続し、1事業で寄附額300万円を目指す。また、庁内にガバメントクラウドファンディングについて周知し、活用を促す。</p>				

¹⁹ ガバメントクラウドファンディング
地方自治体や政府が、インターネット上で実施事業やプロジェクトを具体的に示し、共感した人から寄附を募る仕組みのこと。

II 財政運営の改革－2 歳入の確保

II-2-(1)-② 新規財源の開拓		担当	財政課
取組概要	<p>広告料や貸付料をはじめとした新規財源をさらに開拓するため、引き続き「新規財源検討連絡協議会」において検討を重ねながら、他都市の先進事例や民間の発想を取り入れるなど、新たな視点のもとで財源確保に向けた取組を進める。</p>		
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021) R4(2022) 
成果指標	<p>広告料収入等の新規財源については平成29年度(2017)決算額である1億円程度、ふるさと納税については2億円を確保する。</p>	<p>指標の現状</p> <p>平成29年度(2017)末: 広告料等の新規財源99,253千円、ふるさと納税145,759千円</p> <p>平成30年度(2018)末: 広告料等の新規財源99,643千円、ふるさと納税123,100千円</p> <p>令和元年度(2019)末: 広告料等の新規財源116,897千円、ふるさと納税194,790千円</p> <p>令和2年度(2020)末: 広告料等の新規財源95,273千円、ふるさと納税435,927千円</p>	
年度別取組内容			
R1(2019)	<p>➤ 民間からの企画提案の募集、職員提案等の活用</p> <p>民間からの広告等企画提案の募集を行うとともに、新たなアイデアを取り入れるため職員提案等の活用を図りながら、職員が自ら稼ぐという意識のもと、広告料、貸付料、ネーミングライツ²⁰の対象拡大、その他新規財源導入の可否について継続して検討を行った。今年度は、本庁舎内に自動証明写真機および冷菓自動販売機を設置し、新規財源(貸付料)を確保した。</p>		
R2(2020)	<p>➤ 民間からの企画提案の募集、職員提案等の活用</p> <p>民間からの企画提案を新たに1件採用したほか、ネーミングライツの導入拡大に向けて対象施設の整理等を行うなど、広告料、貸付料の対象拡大、その他新規財源導入に向けた検討を継続して行った。</p>		
R3(2021)	<p>➤ 民間からの企画提案の募集、職員提案等の活用</p> <p>民間からの企画提案を新たに1件採用したほか、ネーミングライツの導入拡大に向けた導入対象施設の整理等を行うなど、広告料、貸付料の対象拡大、その他新規財源導入に向けた検討を継続して行った。</p>		

²⁰ ネーミングライツ(命名権)
 契約により施設等の名称に企業名又は商品名等を冠した愛称を付与させる代わりに、ネーミングライツを取得した企業等から対価を得て、施設等の運営維持などに充てる手法のこと。

	また、市役所本庁舎市民の広場の一部を移動販売事業者に貸し付け、新たな財源を確保した。
R4(2022)	継続実施


Ⅱ-2-(1)-③	ネーミングライツの導入			担当	スポーツ振興課
取組概要	八橋陸上競技場に、夜間照明等整備事業の改修にあわせてネーミングライツを導入する。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
	◎				
成果指標	令和元年度(2019)に八橋陸上競技場にネーミングライツを導入する。		指標の現状 令和元年度(2019)：八橋陸上競技場にネーミングライツを導入した。		
年度別取組内容					
R1(2019)	▶ 八橋陸上競技場にネーミングライツ導入 八橋陸上競技場にネーミングライツを導入し、株式会社ソユーと年間350万円、3年の長期契約を締結した。				

【令和元年度(2019)取組完了】

【八橋運動公園】※写真中央が陸上競技場



(2) 適正な債権管理と未収金の解消

Ⅱ-2-(2)-①	滞納整理の推進			担当	特別滞納整理課
取組概要	市が所管する債権の管理について、適切かつ効率的な徴収につながる指導・助言および体制強化の側面支援を行うことにより、滞納整理の推進を図る。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022) 	
成果指標	前年度を下回る収入未済額合計（国・県支出金等を除く。）	指標の現状			
		平成29年度(2017)決算額:6,641,719千円 平成30年度(2018)決算額:6,291,980千円 令和元年度(2019)決算額:6,036,566千円 令和2年度(2020)決算額:5,794,909千円			
年度別取組内容					
R1(2019)	<p>▶ 債権管理に関する指導・助言体制の強化</p> 市税および公課のうち、滞納金額が高額であり、その徴収が困難なものについては、特別滞納整理課への移管を進めるとともに、それ以外のものについては、各課所室が着実に収入未済額の減少が図れるよう、指導・助言した。また、令和2年4月の改正民法への対応として、「秋田市債権管理事務の手引」改訂版の作成や弁護士による研修会を開催するなどし、当市の債権管理への影響を周知した。				
R2(2020)	<p>▶ 債権管理に関する指導・助言体制の強化</p> 各債権所管課所室に決算状況や徴収方針等を照会・ヒアリングするとともに、未収金対策連絡協議会幹事会を開催し、未収金対策にかかる情報共有を図った。 債権所管課が差押え処分を執行するに当たって、金融機関や滞納者宅への訪問に同行するなどし、実践的な指導・助言を行った。 各債権所管課所室に対し、上半期の徴収実績等を踏まえた今後の取組等を指導・助言等項目として通知した。				
R3(2021)	<p>▶ 債権管理に関する指導・助言体制の強化</p> 上記取組を継続し、滞納処分の執行停止や徴収停止に積極的に取り組むよう指導・助言した。また、市長会と共催する債権回収実務研修について、人事課自治研修センターと協力し、研修内容の取りまとめや講師（弁護士）との調整を行い、動画視聴形態により実施した。				
R4(2022)	継続実施				

Ⅱ-2-(2)-②	市税等の収入率向上等		担当	納税課ほか債権所管課
取組概要	税等の滞納を未然に防止するほか、納付指導や滞納処分により滞納整理の強化を図り、未収金の解消と収入率の向上を図る。			
	名称	H30年度 収入率	R1年度 収入率	R2年度 収入率
	市税等（納税課）	99.1%	99.1%	98.8%
	国民健康保険税（国保年金課）	89.2%	89.9%	91.1%
	後期高齢者医療保険料（後期高齢医療課）	99.4%	99.4%	99.5%
	生活保護費返還金（保護第一課・第二課）	72.0%	75.2%	82.0%
	生活保護費徴収金（保護第一課・第二課）	10.8%	11.0%	12.6%
	介護保険料（介護保険課）	98.8%	98.9%	99.0%
	私立保育所保護者負担金（子ども育成課）	99.2%	99.4%	99.8%
	公立保育所保護者負担金（子ども育成課）	99.8%	99.6%	100%
	公営住宅使用料（住宅整備課）	96.2%	96.5%	96.8%
	水道料金・下水道使用料等（お客様センター）	99.4%	99.3%	99.4%
	取組 スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)
成果指標	前年度を上回る収入率（現年度）		指標の現状	
収入率は上記のとおり				
年度別取組内容				
R1(2019)	<p>▶ 滞納整理の強化 未納者個々の状況に応じたきめ細かい納入指導を継続するとともに、各債権の性質を踏まえ、より実効性のある滞納整理に取り組んだ。</p> <p>▶ 生活保護費徴収金に係る債権の発生防止 被保護者世帯の生活状況等の把握、収入の届出義務の周知徹底などにより生活保護費徴収金に係る新たな債権の発生防止に努めた。</p>			
R2(2020)	継続実施			
R3(2021)	<p>▶ スマートフォン決済の導入 市税、国民健康保険税、後期高齢者医療保険料、介護保険料、保育所保護費負担金、公営住宅使用料、水道料金等について、令和3年4月からスマートフォン決済による納付を導入した。</p>			
R4(2022)	<p>▶ 口座振替オンライン申請の導入 市税、国民健康保険税、後期高齢者医療保険料、介護保険料、保育所保護費負担金、公営住宅使用料、水道料金等について、令和</p>			

II 財政運営の改革－2 歳入の確保

4年4月から口座振替オンライン申請を導入する。

▶ クレジットカード納付の導入

市税、国民健康保険税、後期高齢者医療保険料、介護保険料、保育所保護費負担金、公営住宅使用料等について、令和4年4月からクレジットカード納付を導入する。

(3) 未利用資産の売却

Ⅱ-2-(3)-① 未利用資産の売却		担当	財産管理活用課
取組概要	市が保有する遊休地などの未利用資産について、一般競争入札等により売却する。		
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021) R4(2022) →
成果指標	土地売却収入年25,000千円を目標額として目指す。 ①現有普通財産売却分 2,500千円 ②旧法定外公共物・道路残地等売却分 22,500千円	指標の現状 平成29年度(2017): 土地売却収入 107,620千円 ①普通財産売却分 88,493千円 ②旧法定外公共物・道路残地等売却分 19,127千円 平成30年度(2018): 土地売却収入 45,033千円 ①普通財産売却分 32,511千円 ②旧法定外公共物・道路残地等売却分 12,522千円 令和元年度(2019): 土地売却収入 119,016千円 ①普通財産売却分114,118千円 ②旧法定外公共物・道路残地等売却分 4,898千円 令和2年度(2020): 土地売却収入 65,184千円 ①普通財産売却分 55,587千円 ②旧法定外公共物・道路残地等売却分 9,597千円	
	年度別取組内容		
R1(2019)	▶ 一般競争入札による売却 未利用資産について、一般競争入札による売却を行い、歳入増を図った。また、秋田県内の遊休公共施設や土地を集約して公表している県ホームページ「あきた遊休公共施設等利活用ネットワーク」に秋田市の未利用資産を掲載し、効果的な周知を図った。		
R2(2020)	継続実施		
R3(2021)	▶ 一般競争入札による売却 購入希望がある既貸付地や使用予定のないことを確認した集会所用地の売払いを促進し、歳入増を図った。		
R4(2022)	継続実施		

Ⅱ 財政運営の改革－2 歳入の確保

(4) 基金の効率的な運用

Ⅱ-2-(4)-①		基金の効率的な運用			担当	会計課	
取組概要	本市の中・長期財政見通しにおいて、基金残高の減少が見込まれる状況にあることから、相殺枠超運用 ²¹ や長期債券による運用など、効率的な基金の運用を検討・実施し、運用収入を確保する。						
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)			
成果指標	効率的な基金運用の実施		指標の現状				
			運用収入 平成29年度(2017)：10,821千円 平成30年度(2018)：11,473千円 令和元年度(2019)：9,559千円 令和2年度(2020)：8,613千円				
年度別取組内容							
R1(2019)	<p>▶ 運用収入の確保</p> <p>支払準備金残高および市場金利の動向を注視し、保有中の長期債券による受取利息収入を確保した。</p>						
R2(2020)	継続実施						
R3(2021)	〃						
R4(2022)	〃						

²¹ 相殺枠超運用
金融機関ごとの市債借入額を超えて預入を行うこと。

3 歳出の見直し

(1) 繰出金の見直し

Ⅱ-3-(1)-①	繰出金 ²² の見直し			担当	財政課
取組概要	独立採算の原則に基づく基準外繰出しのあり方について検討を行い、地方独立行政法人に移行した市立秋田総合病院への運営費負担金等を見直しを行う。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022) →	
成果指標	基準外繰出しの縮減を図る。		指標の現状		
			継続実施		
年度別取組内容					
R1(2019)	<p>▶ 特別会計への繰出金の抑制 特別会計について、収入の確保や事業の効率化、経費の見直しを図ることで、繰出金の抑制を図った。</p> <p>▶ 企業会計への繰出金の精査 企業会計について、各会計の経営状況を見ながら、実態に即した繰出しを行い、基準外繰出しについては、その内容を十分精査した。</p> <p>▶ 市立秋田総合病院への運営費負担金・交付金の精査 市立秋田総合病院への運営費負担金・交付金について、経営状況を見ながら内容を十分精査し、令和2年度予算から救急医療、精神医療、結核医療については積算方法の見直しを行い、前年度決算の費用から収益を差し引いた原価計算方式を採用し、基準外繰出しを解消した。</p>				
R2(2020)	<p>▶ 特別会計への繰出金の抑制</p> <p>▶ 企業会計への繰出金の精査</p>				
R3(2021)	継続実施				
R4(2022)	〃				

²² 繰出金

一般会計と特別会計など、会計相互間において支出される経費のこと。

(2) 公共施設に係るコスト縮減

Ⅱ-3-(2)-①		事前協議による公共工事のコスト縮減		担当	工事検査室
取組概要	予算要求段階でのコスト縮減要綱に該当する事業を対象に、基本計画（原案）の内容や概算工事費等を確認する事前協議を行い、コスト縮減を推進する。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	▶
成果指標	縮減項目を設計に反映させることにより、比較した縮減率を減らしていく。	指標の現状			
		平成30年度(2018):対象件数38件、縮減率3.1% 令和元年度(2019):対象件数22件、縮減率1.0% 令和2年度(2020):対象件数27件、縮減率0.6% 令和3年度(2021):対象件数50件、縮減率1.7% (縮減額/概算工事費総額)			
年度別取組内容					
R1(2019)	<p>▶ 事前協議の実施 事業担当課作成の基本計画（原案）と事業計画段階での検討事項シートを確認の上、概算工事費に基づく予算要求資料について協議し、コスト縮減の観点から指導・助言を行った。事業担当課は協議結果を踏まえ、予算要求資料等の見直しを行った。</p> <p>▶ コスト縮減項目の反映 事業担当課がコスト縮減に係るノウハウを蓄積し、コスト縮減項目を他の事業計画にも反映させることで、事業計画段階での概算工事費の精度が改善した。</p>				
R2(2020)	継続実施				
R3(2021)	〃				
R4(2022)	〃				

Ⅱ-3-(2)-②	省エネ推進による公共施設におけるコスト縮減			担当	環境総務課
取組概要	エネルギー集計システムを活用したエネルギー使用の量および料金の可視化と、専門技術者による省エネ支援の実施により、公共施設での省エネを推進する。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
成果指標	①エネルギー使用料金 ②CO ₂ 排出量 について、年平均1%削減する。		指標の現状		
			①エネルギー使用料金 平成29年度(2017):2,218,740千円 平成30年度(2018):2,294,720千円 令和元年度(2019):2,159,765千円 令和2年度(2020):1,958,223千円 ②CO ₂ 排出量 平成29年度(2017):66,684 t-CO ₂ 平成30年度(2018):64,200 t-CO ₂ 令和元年度(2019):59,660 t-CO ₂ 令和2年度(2020):58,466 t-CO ₂		
年度別取組内容					
R1(2019)	▶ エネルギー管理 エネルギー情報等を収集管理しているスマートシティ情報統合管理基盤の適切な運用を通じ、エネルギー使用データ等の可視化・分析によるエネルギー管理を行い、省エネを推進するとともに、市の事務事業に伴い排出される温室効果ガスの削減を図った。 ▶ 外部専門技術者による省エネ支援 外部専門技術者による効果的な技術的指導、助言およびフォローアップを実施し、省エネを推進した。				
R2(2020)	▶ エネルギー管理 ▶ 外部専門技術者による省エネ支援 ▶ 省エネ診断に基づく設備改修の促進 これまでに実施してきた設備機器の運転調整や運用指導等のソフト面での対応に加え、さらなる省エネを図るため、省エネ支援業務において提案された改修案に基づき庁内の設備機器の改修等のハード面での対応を庁内に働きかけた。				
R3(2021)	▶ エネルギー管理 ▶ 外部専門技術者による省エネ支援				
R4(2022)	▶ エネルギー管理 ▶ 省エネ最適化診断の実施 外部専門技術者による省エネ支援 一般財団法人省エネルギーセンターの実施する「省エネ最適化診断」の受診による新たな省エ				

II 財政運営の改革－3 歳出の見直し

	ネ提案を受けることにより、更なる省エネを推進する。
--	---------------------------

II-3-(2)-③	ごみ溶融炉でのバイオマスチップ (木質チップ)の採用		担当	総合環境センター
取組概要	溶融炉の1炉運転に木質のバイオマスチップを使用し、溶融炉の燃焼性を向上させることにより、ごみ処理の安定化、発電量増加等を図る。			
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
	○			→
成果指標	令和元年度(2019)に、バイオマスチップを採用し、発電量増による売電収入の増加を図る。(廃棄物発電会計)	指標の現状 平成29年度(2017): 売電収入266,985千円/年(2炉運転を含む) 1炉運転中のごみ1t当たりの売電量114kWh/t 令和元年度(2019): 売電収入286,648千円/年(2炉運転を含む) 1炉運転中のごみ1t当たりの売電量160kWh/t 令和2年度(2020): 売電収入264,319千円/年(2炉運転を含む) 1炉運転中のごみ1t当たりの売電量150kWh/t		
年度別取組内容				
R1(2019)	▶バイオマスチップの採用 溶融炉の1炉運転にバイオマスチップを使用し、溶融炉の燃焼性を向上させることにより、ごみ処理の安定化、発電量増による売電収入の増加等を図った。			
R2(2020)	継続実施			
R3(2021)	〃			
R4(2022)	〃			

Ⅱ-3-(2)-④	汚泥再生処理センターのし尿処理の 低コスト化		担当	総合環境センター
取組概要	汚泥再生処理センターでユニット型浄化装置を令和3年度(2021)から運用し、公共下水道への放流量を減少させることにより、下水道使用料の縮減を図る。			
取組 スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
	-----	-----▶	○	————▶
成果指標	令和3年度(2021)に、平成29年度(2017)の下水道使用料比で25%減(22,220千円)を目指す。		指標の現状 下水道使用料 平成29年度(2017):29,627千円 平成30年度(2018):29,017千円 令和元年度(2019):28,229千円 令和2年度(2020):27,359千円	
年度別取組内容				
R1(2019)	▶ ユニット型浄化装置導入に向けた検討 汚泥脱水処理後の分離液の一部を浄化する装置について、汚泥再生処理センターで装置の実証試験を行い、装置の規模や下水道使用料の削減率等を検討したのち、次年度の工事実施に向けての予算要求や実施設計を行った。			
R2(2020)	▶ ユニット型浄化装置の設置工事 ユニット型浄化装置を設置する工事の請負契約締結を経て、工事に着手し、令和3年2月に竣工した。			
R3(2021)	▶ ユニット型浄化装置の稼働・維持管理 ユニット型浄化装置を4月から本格稼働させ、同装置の安定稼働を図った。			
R4(2022)	継続実施			

Ⅲ 組織・執行体制の改革

1 組織体制の見直し

(1) 組織機構の見直し

Ⅲ-1-(1)-①	効果的かつ効率的な組織機構の構築			担当	総務課
取組概要	総合計画の施策体系に沿った組織機構のあり方を検討するとともに、新たな行政課題に対応できるよう組織機構の見直しを行う。				
取組スケジュール	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	▶
成果指標	社会情勢の変化や行政課題に対応した効果的かつ効率的な組織機構を構築する。			指標の現状 継続実施	
年度別取組内容					
R1 (2019)	<p>▶ 組織機構のあり方の検討・見直し 全庁調査を実施し、組織的課題の解決に向けた組織機構のあり方の検討および見直しを行った。</p> <p>▶ 移住定住の促進に向けた体制の強化 人口減少対策の一環として、シティプロモーションによる魅力発信やまちへの誇りと愛着の醸成に総合的に取り組み、移住定住を一層促進するため、企画財政部に人口減少・移住定住対策課を設置した（平成31年4月1日設置）。</p>				
R2 (2020)	<p>▶ 組織機構のあり方の検討・見直し 上記取組を継続。</p> <p>▶ 新型コロナウイルス感染症の緊急経済対策等への対応 新型コロナウイルス感染症の緊急経済対策等に関する事務を一元的に処理する組織として、市民生活部に「新型コロナウイルス対策室」を設置した。（令和2年5月1日設置）</p> <p>▶ 芸術・文化・観光による都市の魅力向上 「芸術・文化によるまちおこし」のさらなる推進と文化的・創造的な都市（文化創造のまち）の実現を目指す文化創造プロジェクトの拠点として、「文化創造館」を開設し、文化振興課が所管する施設とした（令和3年3月21日設置）。</p>				
R3 (2021)	<p>▶ 組織機構のあり方の検討・見直し 上記取組を継続。</p> <p>▶ 行政のデジタル化を推進する体制の強化 本市行政のデジタル化を部局横断的に推進するため、「デジタル化推進本部」を設置した（令和3年5月1日設置）。</p> <p>▶ 芸術・文化・観光による都市の魅力向上 千秋公園から大町エリア周辺の文化財を活かしたまち歩き観光を推進する拠点として、「まちなか観光案内所」を開設し、観光振興課</p>				

	の所属機関とした（令和3年4月1日設置）。
R4(2022)	継続実施

(2) 職員数の適正管理


Ⅲ-1-(2)-①	職員数の適正管理			担当	人事課
取組概要	市政を取り巻く環境の変化に柔軟に対応した定員管理を行う。 再任用職員をその経験や知識を活用できる部門に配置しながらも、 職員の年齢構成を考慮した新規採用を行う。				
取組 スケジュール	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	▶
成果指標	職員数2,490人（再任用職員を除く。）を基本とする。			指標の現状	
				継続実施	
年度別取組内容					
R1 (2019)	▶ 多様な人材確保および適材適所の職員配置 多様な人材を確保するため、職務経験者を対象とした職員採用試験 など複数の試験区分で採用試験を実施したほか、定年退職予定者の 再任用希望の確認等を行い、適材適所の職員配置を図った。				
R2 (2020)	▶ 多様な人材確保および適材適所の職員配置 上記取組を継続した。新型コロナウイルス感染症の影響により採用 試験の実施方法を見直し、令和2年度期首の職員数2,461人（再任用 職員を除く。）をもとに職員採用を進めた。				
R3 (2021)	▶ 多様な人材確保および適材適所の職員配置 多様な人材を確保するため、職務経験者を対象とした職員採用試験 など複数の試験区分で採用試験を実施したほか、定年退職予定者の 再任用希望の確認等を行い、適材適所の職員配置を図った。				
R4 (2022)	継続実施				

(3) 消防組織機構の見直し

Ⅲ-1-(3)-① 消防団の組織体制の見直し		担当	消防本部警防課
取組概要	団員の確保が困難な地域の器具置場や班を統廃合して、拠点となる器具置場に人員を集約することで、将来にわたって消防団の組織を維持するとともに、教育訓練の充実と装備等を強化し、災害対応能力向上と活性化を図る。		
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021) R4(2022)
成果指標	消防団組織再編計画に基づいて、地域の消防力として機能する団員数と資機材を備えた班組織に見直す。		指標の現状
			平成31年(2019)4月:消防団168班 器具置場164か所 令和2年(2020)4月:消防団167班 器具置場160か所 令和3年(2021)4月:消防団165班 器具置場157か所
年度別取組内容			
R1(2019)	<p>▶ 組織再編計画に基づく拠点集約</p> <p>消防団組織等検討委員会や方面隊幹部会議で各分団の意見を集約し、器具置場の統合や団員・資機材の集約が必要な班組織を洗い出した。今年度は、河辺第三分団岩見三内班の器具置場を改築し、岩見三内班、野崎班、台班の人員と車両を同施設に集約して分団の活動拠点とし、野崎班と台班の器具置場を廃止・解体した。また、配置車両を3台から2台に変更し、減じた1台を機動力が必要な分団に配置変更した。</p>		
R2(2020)	<p>▶ 組織再編計画に基づく拠点集約</p> <p>金足地区コミュニティセンター付近に金足分団の拠点となる施設を整備し、周辺4か所の器具置場に配置している団員と車両、資機材を集約した。小泉班、高岡班、堀内班の器具置場を解体した。下新城分団岩城班と槻ノ木班を統合し、器具置場を移転した。岩城班と槻ノ木班の器具置場を解体した。河辺第二分団畑班を黒沼班と統合し、畑班の器具置場を土地所有者へ譲渡した。</p>		
R3(2021)	<p>▶ 組織再編計画に基づく拠点集約</p> <p>保戸野分団北ノ丸班を保戸野班と統合し、北ノ丸班の器具置場を解体した。秋田旭分団旭北班を旭南班と統合し、旭北班の器具置場を解体した。秋田東分団檜山班を明田班と統合し、檜山班の器具置場を解体した。旭川分団泉班(H24年廃止)の器具置場を解体した。</p>		
R4(2022)	<p>▶ 組織再編計画に基づく拠点集約</p> <p>下浜分団名ヶ沢班と羽川班を統合するほか、八田班と檜田班を統合</p>		

Ⅲ 組織・執行体制の改革－ 1 組織体制の見直し

	<p>し、器具置場を建築する。 河辺第三分団砂子淵班、上三内班、杉沢班、東班を統合し、器具置場を建築する。 曾場班、田尻班、岩見三内班を統合する。 新川班、小平岱班を統合する。</p>
--	--

Ⅲ-1-(3)-②	消防力の適正配置			担当	消防本部警防課
取組概要	平成30年度(2018)に実施した消防力適正配置調査の結果を受け、消防署所の統合や、消防車両の必要台数と適正な配置の検討を行い、組織の効率化とより効果的な災害対応力の充実に取り組む。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022) 	
成果指標	消防力適正配置調査の結果を受け適正な配置を検討し、署所の統合に着手する。		指標の現状		
			平成30年度(2018):14署所 令和元年度(2019):14署所 ※署所の統合に着手した。 令和2年度(2020):14署所 令和3年度(2021):14署所		
年度別取組内容					
R1(2019)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 消防庁舎検討委員会による検討・方針決定 消防庁舎検討委員会において、消防署所の統合や規模を検討し、消防車両の必要台数と適正配置の方針を決定した。 ▶ パブリックコメント 消防庁舎検討委員会で決定した適正配置の方針について、パブリックコメントを実施して市民意見を反映させた。 ▶ 署所用地の選定 統合に伴う新たな署所用地として、災害に効果的に対応することができる最適な用地を選定し、土地所有者との買収交渉を行った。 				
R2(2020)	▶ 土地所有者との買収交渉の継続				
R3(2021)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 土地所有者との買収交渉の継続 ▶ 予算提案(土地の確定測量、不動産鑑定等) 用地買収に向けた土地確定測量を完了し、令和4年3月に不動産鑑定を実施した。 				
R4(2022)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 選定用地の取得 ▶ 各種業務委託 ▶ 建設基本計画、概算設計書および実施設計書の作成 				

２ 執行体制の見直し

(1) 情報システムの最適化および効率化

Ⅲ-2-(1)-①	文書管理システムにおける電子化率の向上		担当	文書法制課
取組概要	国は、更新履歴を厳格に管理できる電子決裁システムへの移行を積極的に推進する方針であり、本市においても電子決裁等の割合（電子化率）を向上させることにより業務の効率化を図る。			
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
成果指標	令和4年度(2022)までに、電子化率80%を目指す。		指標の現状 平成29年度(2017):59% 平成30年度(2018):61% 令和元年度(2019):67% 令和2年度(2020):78%	
年度別取組内容				
R1(2019)	▶ ヒアリング・説明会等の実施 電子化率が50%未満の課所室に対し、ヒアリングによる現状把握を行い、電子化率を向上させる運用方法の提案を行った。また、新任文書取扱主任研修において、電子化率向上への協力を依頼した。			
R2(2020)	▶ ヒアリングの実施 電子化率が70%未満の課所室に対し、ヒアリングによる現状把握を行い、電子化率を向上させる運用方法の提案を行った。			
R3(2021)	▶ ヒアリングの実施 電子化率が75%未満の課所室に対し、ヒアリングによる現状把握を行い、電子化率を向上させる運用方法の提案を行った。			
R4(2022)	▶ ヒアリングの実施			

Ⅲ-2-(1)-②	ICTに係る中期的計画の策定・実施			担当	デジタル化推進本部
取組概要	<p>官民データ利活用のための環境を総合的かつ効果的に整備するため、官民データ活用推進基本法が平成28年(2016)12月に施行され、市町村は、官民データ活用推進計画を作成することが努力義務として求められている。本市におけるICTの利活用に関する統一の方針として、総合計画や国、県の計画と整合を図るとともに、官民データ活用推進基本法への対応もあわせて、情報化推進に関する中期的計画を策定・実施する。</p>				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
	-----▶		○	▶	
成果指標	令和2年度(2020)までに、計画を策定する。		指標の現状		
			実施		
年度別取組内容					
R1(2019)	<p>▶ 計画骨子の確定 本市の総合計画や行政改革大綱との関係性を整理し、新たに策定するICTに係る中期的計画を、市町村の策定が努力義務となっている市町村官民データ活用推進計画として位置付けることとした。また、同計画の策定体制の検討を行うとともに、同計画の骨子を確定した。</p>				
R2(2020)	<p>▶ デジタル化推進計画原案の作成 国の動向やデジタル市役所を目指す本市の方針を踏まえ、ICTに係る中期的計画の名称を「秋田市デジタル化推進計画」とした。上位計画である総合計画の策定スケジュールが3か月後ろ倒しとなったことから、令和3年6月までにデジタル化推進計画を策定することとした。 11月に秋田市デジタル化推進計画計画策定委員会を設置し、デジタル化推進計画の内容を検討したほか、市議会に対して適時説明を行い、計画原案を作成した。</p>				
R3(2021)	<p>▶ デジタル化推進計画の策定、実施 ICTに係る中期的計画である「秋田市デジタル化推進計画」を令和3年6月に策定した。なお、本計画においては、デジタル化に係る技術の進展の速さを鑑み、毎年度個別施策を見直すこととしており、継続的に個別施策の実施と進捗の管理を行った。</p>				
R4(2022)	<p>▶ デジタル化推進計画に掲げる個別施策の実施と進捗の管理 継続的に、個別施策を見直すとともに、個別施策の実施・進捗の管理を行う。</p>				

Ⅲ 組織・執行体制の改革－２ 執行体制の見直し

Ⅲ-2-(1)-③	情報システムの見直しおよび最適化			担当	情報統計課
取組概要	住民記録や税などの業務に利用している汎用機システム ²³ について、将来のクラウド化 ²⁴ を見据え、令和3年(2021)10月の次期更新時において、本市独自開発の現行システムから、業者が提供するパッケージ製品 ²⁵ によるオープンシステム ²⁶ に移行し、情報システムの最適化を図る。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
	-----	-----▶	◎		
成果指標	令和3年度(2021)に新システムを稼働させる。		指標の現状		
			稼働済み		
年度別取組内容					
R1(2019)	<p>▶ 新システムの要件定義・設計・開発等</p> <p>前年度にプロポーザルで選定した新システム導入業者と4月に契約締結し、庁内関係課所室および導入業者によるプロジェクトキックオフ会議を6月に開催した。新システムの構築に向け、要件定義、基本設計、運用設計など一連の作業を実施したほか、月次で全体会議を開催し、進捗状況などの情報共有を図った。</p>				
R2(2020)	<p>▶ 新システムの開発</p> <p>新システムのカスタマイズおよび新システムとデータ連携する個別業務システムの改修に係る費用を予算計上し、契約締結した。総合テスト、システム連携テスト、受入テスト、移行データ検証などのシステム構築に係る作業を実施した。月次で全体会議を開催し、進捗状況などの情報共有を図った。</p>				
R3(2021)	<p>▶ 移行作業・本稼働</p> <p>新システム稼働までの期間において、月次で全体会議を開催し、進捗状況などの情報共有を図るとともに、データ移行、職員研修、端末設置等のシステム移行作業を実施し、9月21日に新システムを稼働させた。</p>				

【令和3年度(2021)取組完了】

²³ 汎用機システム

メーカー独自仕様の製品で構成される大型汎用コンピュータを利用したシステム。本市では、住民記録や税務などの業務に利用している。

²⁴ クラウド化

情報システムのハードウェア、ソフトウェア、データなどを外部のデータセンター等において管理・運用し、ネットワーク経由で利用することができるようにする取組のこと。

²⁵ パッケージ製品

既製品として業者が提供するソフトウェア製品。

²⁶ オープンシステム

仕様が公開された製品で構成されるシステム。

Ⅲ-2-(1)-④	印刷機器の適切な運用および管理によるコスト削減			担当	情報統計課
取組概要	印刷コスト削減に資する取組の励行とプリンタの適切な管理による修繕費の低減により、印刷コストの削減を図る。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	▶
成果指標	<p>①平成30年度(2018)総印刷枚数に対して、令和4年度(2022)総印刷枚数を15%以上削減する。</p> <p>②平成30年度(2018)配布プリンタ総修繕費に対して、令和4年度(2022)配布プリンタ総修繕費を10%以上低減する。</p>		<p>指標の現状</p> <p>①総印刷枚数(本庁舎内にある認証印刷対象の複写機およびプリンタ全ての総印刷枚数)</p> <p>平成29年度(2017):16,388,994枚 平成30年度(2018):16,067,724枚 令和元年度(2019):15,816,936枚 令和2年度(2020):15,797,427枚</p> <p>②総修繕費(配布プリンタ)</p> <p>平成29年度(2017):3,690千円 平成30年度(2018):2,684千円 令和元年度(2019):610千円 令和2年度(2020):0千円</p>		
年度別取組内容					
R1(2019)	<p>▶印刷コスト削減に資する取組の推進</p> <p>各課所室の前年度取組状況を全庁へフィードバックし、印刷コスト削減に資する取組のさらなる推進を依頼した。</p> <p>▶プリンタの更新</p> <p>本庁および出先のリース期限切れプリンタ計86台を更新した。</p>				
R2(2020)	<p>▶印刷コスト削減に資する取組の推進</p> <p>各課所室の前年度取組状況を全庁へフィードバックし、印刷コスト削減に資する取組のさらなる推進を依頼した。</p>				
R3(2021)	継続実施				
R4(2022)	〃				

(2) 職員の働き方の検証

Ⅲ-2-(2)-① 職員の働き方の検証		担当	人事課
取組概要	柔軟で多様な働き方を推進することにより、職員一人ひとりがいきいきと働くことができる環境をつくり、職員のワーク・ライフ・バランスの充実を図る。		
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021) R4(2022)
成果指標	①令和3年度(2021)までに、育児・介護中職員の時差出勤を実施 ②前年度を下回る時間外勤務時間		指標の現状 ①育児・介護中職員時差出勤 令和元年度(2019): 試行実施 令和2年度(2020): 本格実施 令和3年度(2021): 本格実施 ②職員1人当たりの時間外勤務時間 平成29年度(2017): 7.2時間/月 平成30年度(2018): 6.8時間/月 令和元年度(2019): 7.2時間/月 令和2年度(2020): 7.0時間/月
	年度別取組内容		
R1(2019)	<p>➤ 育児・介護中職員の時差出勤の試験実施 育児・介護中職員を対象とした時差出勤を試験的に実施し、効果検証と課題把握を行った。</p> <p>➤ 多様な働き方の検証 職員意識調査等を実施し、育児・介護休暇中職員が庁内情報を共有できる仕組みや、地域貢献活動促進のための副業従事の見直し、管理職による時間外勤務状況の把握と縮減に向けたマネジメントなど、多様な働き方を検証した。</p> <p>➤ 時間外勤務時間の縮減 前年度の時間外勤務時間を下回るよう、ノー残業デーの徹底、業務量に配慮した人事異動等を行った。また、適正な時間外勤務管理のため、条例上の上限である月45時間を超える時間外勤務が見込まれる業務について、各課所室からの申請に基づきヒアリング等を実施して状況を把握した。</p>		
R2(2020)	<p>➤ 育児・介護中職員の時差出勤の本格実施 育児・介護中職員の時差出勤を本格実施するとともに、育児・介護以外の理由による制度利用も可とした。</p> <p>➤ 時間外勤務時間の縮減 職員の時間外勤務の縮減を図るため、業務量等の削減、業務負担の偏り解消、上司による業務管理などの具体的な取組例を庁内に周知した。</p>		
R3(2021)	<p>➤ 時間外勤務時間の縮減</p>		

	時間外勤務の縮減に向け、ノー残業デーの徹底、業務量に配慮した人事異動等を行った。さらに、適正な時間外勤務管理および縮減のための取組事例を示し、各課所室で取り組むよう通知したほか、月４５時間を超える時間外勤務が見込まれる業務について、各課所室からの申請に基づき事前に状況を確認し、必要と認められた場合に認定した。
R4(2022)	<p>➤ 新たな働き方の導入 多様な働き方の検証結果に応じて、各取組を実施する。</p> <p>➤ 時間外勤務時間の縮減 前年度の時間外勤務時間を下回るよう、ノー残業デーの徹底、業務量に配慮した人事異動等を行う。また、ヒアリング等により事前に状況確認を行い、条例等の上限内での適正な時間外勤務管理を行う。</p>

(3) 事務の集約化

Ⅲ-2-(3)-①	給与・福利厚生等総務事務の集約化			担当	人事課
取組概要	効率的な事務処理体制の構築に向け、人事課および各課で行う給与・福利厚生等の総務事務を集約する。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
	-----	-----	◎		
成果指標	令和３年度(2021)までに、総務事務を集約する。		指標の現状 令和３年度(2021)：総務事務を集約した。		
年度別取組内容					
R1(2019)	<p>➤ 事務処理フロー・業務量等の調査 給与・福利厚生等の現行の事務処理フローと業務量等の調査を実施した。</p>				
R2(2020)	<p>➤ 集約化する事務の絞り込み 集約化の実現可能性や費用対効果の検討を踏まえ、会計年度任用職員の報酬に関する事務に焦点を当て、現行の事務の中から集約化できる部分を抽出した。</p>				
R3(2021)	<p>➤ 総務事務の集約・運用 総務事務の集約として、会計年度任用職員（日額・時給）の報酬および費用弁償の支払に係る事務を正職員と同様に財務会計システムと連動して行うため、秋田市事務決裁規程の一部を改正（令和３年１０月１日施行）し、１０月から本格実施した。</p>				

【令和３年度(2021)取組完了】

Ⅲ 組織・執行体制の改革－２ 執行体制の見直し

Ⅲ-2-(3)-②	駅東サービスセンターの土日・祝日休館			担当	駅東サービスセンター
取組概要	市税等のコンビニ納付と証明書のコンビニ交付導入に伴い、当センターの休日取扱業務のほとんどがコンビニで対応できるため土日・祝日を休館にする。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
	-----▶	○		▶	
成果指標	令和２年度(2020)までに、日曜日・祝日を休館にする。		指標の現状 令和２年度(2020):日曜日・祝日を休館にした。		
年度別取組内容					
R1(2019)	<p>▶ 証明書等のコンビニ交付の周知・利用促進 市民課等と連携してマイナンバーカードの普及に努め、コンビニ交付の周知・利用促進を図った。</p>				
R2(2020)	<p>▶ 規則改正 休館日等の変更のため、秋田市民交流プラザ条例施行規則を改正した。</p> <p>▶ 日曜日・祝日休館の実施 10月から日曜日・祝日休館を実施した。実施に当たり、広報あきた、ホームページ等で周知し、円滑な移行を図った。また、コンビニ交付については、市民課と連携して周知・利用促進を図った。</p> <p>▶ 土曜日休館の検討 日曜日・祝日休館実施後の利用状況を検証し、利用者が減少していること、平日利用やコンビニ利用による代替が可能であることから土曜日も休館とする方針とした。</p>				
R3(2021)	<p>▶ 証明書等のコンビニ交付の周知・利用促進 マイナンバーカード普及・コンビニ交付について、市民課と連携し、ポスターやノボリ掲示・チラシ等配布により周知・利用促進を図った。</p> <p>▶ 土曜日休館実施時期の検討 コンビニ交付・窓口の利用状況を把握し、令和４年10月からの土曜日休館実施を進めることとした。</p>				
R4(2022)	<p>▶ 規則改正 休館日変更のため、秋田市民交流プラザ条例施行規則を改正する。</p> <p>▶ 土曜日休館の実施 土曜日休館実施に当たり、広報あきた、ホームページ等で周知し、円滑な移行を図る。</p>				

Ⅲ-2-(3)-③	図書館の庶務経理の集中管理		担当	中央図書館明德館
取組概要	図書館の庶務経理を中央図書館明德館で集中管理し、業務の効率化を図る。			
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
	-----▶	◎		
成果指標	令和2年度(2020)までに、集中管理を実施する。		指標の現状 令和2年度(2020):集中管理を実施した。	
年度別取組内容				
R1(2019)	<p>▶ 集中管理方法と対象業務の決定 秋田市立図書館庶務経理事務の集中管理に関する検討会議を設置し、現行の庶務経理業務を体系別に整理して集中管理の可否や見直しの必要性などを協議した。また、図書館庶務経理の集中管理対象業務を選定し、これを基に、関係課所室と調整を図り、集中管理業務を決定した。</p>			
R2(2020)	<p>▶ 集中管理実施 土崎、新屋、雄和図書館の庶務経理の集中管理対象事務について、中央図書館明德館で執行し、庶務経理の集中管理を実施した。</p>			

【令和2年度(2020)取組完了】

3 内部統制の推進と職員の資質向上

(1) 内部統制とコンプライアンスの推進

Ⅲ-3-(1)-①	事務処理に関するリスク管理体制の強化		担当	総務課
取組概要	事務処理に関するリスクを未然に防止するために構築したリスク管理体制のもと、職員のリスク管理意識やコンプライアンス意識を一層向上させるとともに、より効果的なリスク管理の取組や情報共有のあり方を検討し、リスク管理体制の強化を図る。			
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
成果指標	全庁一斉の業務マニュアル点検への職員の参加割合90%以上		指標の現状 平成30年度(2018):62% 令和元年度(2019):82% 令和2年度(2020):91% 令和3年度(2021):95%	
年度別取組内容				
R1(2019)	▶ リスク管理体制の強化 全庁一斉の業務マニュアルの点検を実施するとともに、その取組状況を各部局の統括リスクマネージャーおよび総務部総務課が評価し、リスク管理体制の強化を図った。 ▶ コンプライアンス意識の向上 統括リスクマネージャー会議等により、リスク管理の取組や不適正な事務処理の再発防止案などについて情報共有を図るとともに、コンプライアンス強化期間の設定により、各職場でのコンプライアンス意識の向上および業務体制、チェック体制、マニュアル等の点検を行った。			
R2(2020)	継続実施			
R3(2021)	〃			
R4(2022)	〃			

Ⅲ-3-(1)-②	内部統制に関する方針および体制の整備			担当	総務課
取組概要	地方自治法の改正（令和２年(2020)４月施行）に伴い、「市長は、内部統制 ²⁷ に関する方針を定め、これに基づき必要な体制を整備するよう努めなければならない」となったことを受け、現行の「今後の内部統制に関する取組方針」を見直し、新たな方針と体制を整備する。				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	
	-----	-----▶	◎		
成果指標	令和３年度(2021)までに、改正地方自治法に基づく内部統制に関する方針と体制を整備する。		指標の現状 令和３年度(2021)：内部統制に関する方針と体制を整備した。		
年度別取組内容					
R1(2019)	▶ 情報収集等 国からの技術的助言を踏まえて検討を進めるとともに、内部統制に関する方針等の整備が義務付けられている都道府県および指定都市の取組状況を情報収集した。				
R2(2020)	▶ 内部統制に関する新たな方針の策定と体制の整備に向けた準備 令和３年度からの内部統制の運用開始に向け、内部統制に関する方針案を策定し、具体的な取組や体制について検討した。				
R3(2021)	▶ 内部統制に関する新たな方針に基づく取組の実施 内部統制に関する新たな方針および体制を４月３０日に整備し、改正地方自治法に基づく内部統制の取組を開始した。				

【令和３年度(2021)取組完了】

²⁷ 内部統制
組織の内部をコントロールして不祥事や事故を防ぐこと。組織が持続的、安定的に成長するために、内部でコントロール(統制)すること。

(2) 職員の資質向上

Ⅲ-3-(2)-①		業務改善運動の推進		担当	総務課
取組概要	<p>庁内業務改善運動「かんTAN!かいZEN!大作戦!」を実施し、各職場で身近で簡単な業務改善に取り組み、実践事例は庁内に公開するなど、情報共有を図る。また、実践事例の中から、全ての職場で取り組みやすい事例を選び、庁内に実施を呼びかけて、庁内全体での行政サービスの向上、業務の効率化を推進する。</p>				
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	▶
成果指標	<p>改善件数120件（各課所室1件以上に相当）</p>		指標の現状		
			<p>平成30年度(2018):全庁 80件 令和元年度(2019):全庁 62件 令和2年度(2020):全庁 85件 令和3年度(2021):全庁102件</p>		
年度別取組内容					
R1(2019)	<p>▶ 庁内業務改善運動の推進 庁内業務改善運動「かんTAN!かいZEN!大作戦!」に取り組み、応募事例の中から発表事例を選出し、庁内発表会で発表・紹介・表彰したほか、他の職場でも取り組みやすく、市民サービス向上や業務の効率化につながる事例を「これだけはやってみま賞」事例として選出・表彰して、庁内に周知した。また、各職場でのさらなる業務改善の参考とするため、応募のあった実践事例と表彰結果等をまとめ、「庁内かんTAN!かいZEN!実践事例集」として庁内に周知した。</p>				
R2(2020)	継続実施				
R3(2021)	〃				
R4(2022)	〃				

Ⅲ-3-(2)-②	時代の変化や行政課題に対応できる 人材の育成		担当	人事課
取組概要	取り巻く環境変化に対応し、新たな時代の要請に応える行政運営を進めるための人材育成策と研修体系を構築し、人事評価制度と連携した職員研修等の充実を図る。また、秋田市人材育成基本方針および秋田市職員研修実施計画を見直し、改訂する。(令和4年度(2022)～令和7年度(2025)の4か年方針・計画)			
取組 スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
成果指標	令和2年度(2020)に秋田市人材育成基本方針および秋田市職員研修実施計画の内容を見直し、改訂する。		指標の現状 改訂	
年度別取組内容				
R1(2019)	<p>▶ 職員研修実施計画に基づく研修実施 秋田市職員研修実施計画に基づき、職務や能力に応じた研修や県内外の研修機関等への職員派遣を実施するとともに、各部署や職場が主体的に取り組む研修活動を支援した。今年度は、RPA・AIの将来的活用をテーマとした講演会や、障がいの特性などを組織全体で正しく理解し、すべての職員が働きやすい環境づくりを推進するための部局研修などを新たに実施した。</p> <p>▶ 人材育成に関する職員アンケート等の実施 秋田市人材育成基本方針および秋田市職員研修実施計画の改訂に向け、新たな行政課題や情報通信技術の進歩、働き方の見直しといった外部・内部環境の変化を検証するとともに、職員の職務へのやりがいやキャリア形成、研修、職場環境づくりなど人材育成に関する現状や意識を把握する職員アンケートを実施し、人事制度や研修、職場の課題や取組成果等を把握した。</p>			
R2(2020)	<p>▶ 職員研修実施計画に基づく研修実施 令和2年度職員研修実施計画に基づき、新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めながら、動画やオンラインも活用して各種研修を実施した。今年度は、演劇の要素を採り入れながら表現力を学び、日常業務に不可欠なコミュニケーション能力の向上を図る研修を新たに実施した。</p> <p>人材育成基本方針および職員研修実施計画の改訂については、次期総合計画の策定や定年延長関連法案成立の時期、新型コロナウイルス感染症の職員意識への影響などを踏まえ、令和3年度に延期した。</p>			
R3(2021)	<p>▶ 職員研修実施計画に基づく研修実施 令和3年度職員研修実施計画に基づき、新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めながら、動画やオンラインも活用して各種研修を</p>			

Ⅲ 組織・執行体制の改革－３ 内部統制の推進と職員の資質向上

	<p>実施した。今年度は、動画研修の申込み用データベースを整備し、受講者が動画研修を受講しやすい体制を整備した。</p> <p>➤ 秋田市人材育成基本方針および秋田市職員研修実施計画の改訂 令和４年３月に、人材育成基本方針および職員研修実施計画を改訂した。</p>
R4(2022)	<p>➤ 研修実施 改訂した基本方針および実施計画に基づく研修事業を実施する。</p>

Ⅲ-3-(2)-③ 女性管理職の登用拡大		担当	人事課	
取組概要	<p>平成28年(2016)に女性活躍推進法が施行されたことにより、女性の管理職登用や働きやすい職場環境づくりなどに対する社会的要請が高まっており、女性職員のさらなる活躍推進や仕事と生活の調和の推進に向けた意識啓発等の取組を実施するほか、将来の管理職を担う人材を育成するため、個々に応じてキャリア形成を考慮した人事運用を行う。</p>			
取組スケジュール	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)
成果指標	<p>令和４年度(2022)までに、女性管理職(課長級以上)の割合18.0%を目指す。</p>		<p>指標の現状</p> <p>平成30年(2018)4月:14.6%</p> <p>平成31年(2019)4月:15.9%</p> <p>令和２年(2020)4月:15.7%</p> <p>令和３年(2021)5月:16.4%</p>	
年度別取組内容				
R1(2019)	<p>➤ キャリア形成支援・意識改革等 女性職員のさらなる活躍推進、ワーク・ライフ・バランスの充実に向けた意識啓発、キャリアアップに向けた研修、職域拡大等による多様な職務機会の付与などにより、キャリア形成や意識改革を図るとともに、育児などの状況を考慮した人事運用を行った。今年度は管理職を対象としたイクボス実践講演会や庁内の男女共生推進者等を対象とした女性活躍推進講演会を開催したほか、女性職員を対象とした座談会を実施した。</p> <p>➤ 女性職員の活躍に向けた働きやすい環境づくり 男性職員の育児休業取得率の向上や時間外勤務の縮減等により、男性も含めた全ての職員の意識啓発を図るとともに、育児・介護中職員の時差出勤の試験的实施など、制度面でも充実を図った。</p>			
R2(2020)	<p>➤ キャリア形成支援・意識改革等 柔軟で多様な働き方の推進により職員のワーク・ライフ・バランスの充実を図るため、庁内の男女共生推進者等を対象とした女性活躍推進講演会を開催した。</p> <p>➤ 女性職員の活躍に向けた働きやすい環境づくり 男性職員の育児休業取得促進に向け、育児休業を取得した男性職員</p>			

Ⅲ組織・執行体制の改革－３内部統制の推進と職員の資質向上

	<p>の体験レポートを庁内に紹介するなど、男性も含めた全ての職員の意識啓発を図るとともに、時差出勤制度を本格実施し、育児・介護以外の理由による制度利用も可とした。</p>
R3(2021)	<p>➤ 女性職員の活躍に向けた働きやすい環境づくり 職員のワーク・ライフ・バランスの充実を図るため、時差出勤制度を実施したほか、庁内の男女共生推進者等を対象とした「女性活躍推進研修」を実施した。また、男性職員の育児休業取得促進に向けた育児休業体験談の庁内公開および育児関連休暇等の理解促進等を目的とした育児参加準備シートの作成・周知を行った。</p>
R4(2022)	<p>継続実施</p>